

HERO 13 BLACK

GoPro

GoProムーブメントに参加しよう

@GoPro

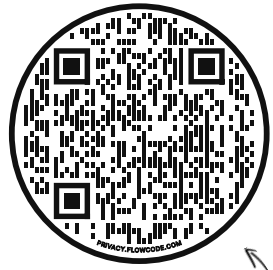
@GoPro

@GoPro

facebook.com/GoPro

@GoPro

pinterest.com/GoPro



すぐに撮影する方法はこちらをチェック

こちらのモバイル対応サイトでは、GoProを箱から出してすぐに使えるよう、セットアップや録画から、自動ハイライトビデオの作成、メディアの保存まで、幅広くご紹介しています。

gopro.com/OOBE

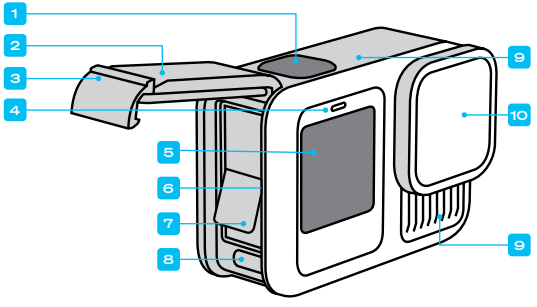
目次

HERO13 Black各部の名称	6
はじめに	8
GoProの操作方法	14
ショットの撮影	18
HiLightタグ	20
画面方向	21
イージーコントロールの使用	22
プロコントロールの使用	31
プロコントロールのプリセットとショートカット	34
ビデオの録画	39
写真撮影	45
タイムラプスの撮影	50
ライブストリーミング + ウェブカメラモード	56
パワーツール	57
露出コントロール	62
音声コントロールの使用	66
GoProを他のデバイスとペアリングする	69
タイムコードの同期	70
メディアの再生	71
GoPro Quikアプリへの接続	75
ハイライトビデオの自動生成	76

目次

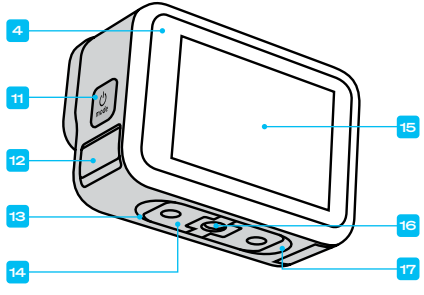
メディアの保存	77
メディアの消去	81
ユーザー設定	83
重要なメッセージ	93
カメラのリセット	95
GoProのマウント方法	97
水中や水辺でのGoProの使用	102
ドアの取り外し	103
メンテナンス	105
バッテリーの情報	106
トラブルシューティング	110
仕様：ビデオ	112
仕様：写真	126
仕様：タイムラプス	131
仕様：Protune	137
仕様：オーディオ	145
カスタマーサポート	148
登録商標	148
規制情報	148

HERO13 Black各部の名称



1. シャッターボタン
2. ドア
3. ドアラッチ
4. ステータスライト
5. フロントスクリーン
6. microSDカードスロット
7. バッテリー
8. USB-Cポート
9. マイク
10. リムーバブルレンズ

HERO13 Black各部の名称



11. モードボタン
12. ドレインマイク (開かないでください。ドア / ラッチではありません)
13. スピーカー
14. フォールディングフィンガー
15. タッチスクリーン
16. 1/4-20マウント用ねじ
17. マグネット式ラッチマウント接続部 (マグネット式ラッチマウントは別売)

GoProに付属しているアクセサリーの使用方法は、「*GoProのマウント方法 (97ページ)*」をご参照ください。

SDカード

ビデオや写真を保存するには、microSDカード (別売) が必要です。次の要件を満たす有名ブランド製のカードを使用してください。

- microSD、microSDHC、またはmicroSDXC
- 規格クラスA2 V30、UHS-3以上

推奨されるmicroSDカードのリストについては、**gopro.com/microsdcards**をご覧ください。

SDカードを取り扱う前に、手が清潔で乾いていることを確認してください。カードの許容温度範囲やその他の重要事項は、カード製造元のガイドラインを確認してください。

*注意：*SDカードは時間の経過とともに劣化し、カメラのメディア保存機能に影響を与える可能性があります。問題が発生した場合は、カードを新しいカードに交換してください。

GOPROテク：定期的にSDカードをフォーマットして、適切な状態に保ってください。フォーマットするとメディアがすべて消去されます。再フォーマット前に必ず保存してください。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「リセット」>「SDカードをフォーマット」の順にタップします。

ビデオと写真を保存する方法については、「*メディアの保存 (77ページ〜)*」をご参照ください。

リチャージャブルバッテリー

最大限のパフォーマンスを得るため、必ず新しいGoProに同梱されているEnduroバッテリーを使用してください。

GOPROテク：以下の操作でバッテリーの状態をチェックし、適切なバッテリーを使用していることを簡単に確認することができます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「バージョン情報」>「バッテリー情報」の順にタップします。



警告：HERO13 BlackにGoPro純正以外のバッテリーを使用すると、カメラのパフォーマンスが大幅に制限される可能性があります。GoPro純正以外のバッテリーを使用すると、保証が無効になります。また火災、感電、その他の安全上のリスクが生じる可能性があります。

バッテリーの安全性と使用方法の詳細については、「*バッテリーの情報 (106ページ)*」をご参照ください。

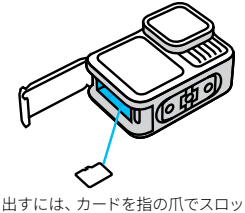
SDカードとバッテリーのセットアップ

1. ドアを開ける前に、GoProが清潔で乾燥していることを確認してください。ドアラッチのロックを解除し、ドアを開きます。



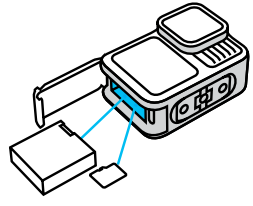
注意：特に最初の数回は、ラッチが開きにくい場合があります。これは、防水性を維持するための仕様です。

2. カメラをオフにしてバッテリーを取り外し、SDカードのラベルをバッテリーコンパートメント側に向けた状態でカードスロットに挿入します。

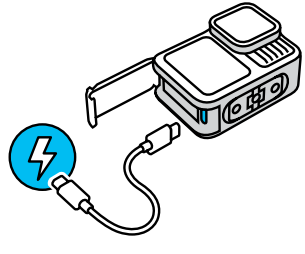


SDカードを取り出すには、カードを指の爪でスロット内に押し込みます。

3. バッテリーを装着します。

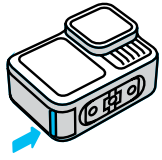


4. 付属のUSB-Cケーブルでカメラを USB充電器またはコンピューターに接続します。



バッテリーがフル充電されるには約3時間かかります。充電が完了すると、カメラステータスライトがオフになります。詳細については、「*バッテリーの情報 (106ページ)*」をご参照ください。

5. 充電が完了したら、ケーブルのプラグを抜きます。シール部分に埃やゴミが付着していないことを確認します。必要に応じて、ドアを閉める前にシール部分を布で拭いてください。カメラを使用する前に、ドアラッチが閉じられ、ロックされていることを確認してください。



注：このカメラのドアは着脱式です。ドアを閉じた後、ドアがしっかりとロックされ、密閉されていることを確認してください。

カメラのアップデート

カメラは、必ずアップデートしてから使用してください。

GoPro Quikアプリを使用した更新

1. Apple App StoreまたはGoogle Playからアプリをモバイルデバイスにダウンロードします。
2. インターネット接続を確認のうえ、モードボタン を押してGoProの電源を入れます。
3. 画面上の指示に従い、アップデートを完了させます。

手動による更新

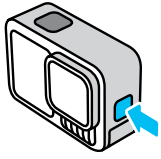
1. **gopro.com/update**を参照してください。
2. カメラの一覧から*「HERO13 Black」*を選択します。
3. *「手動でカメラを更新」*を選択し、指示に従います。

GOPROテク：アプリは、GoProカメラに接続するたびに、カメラソフトウェアの更新がないかチェックします。これにより、GoProで常に最新の機能を利用できるようになり、最適なパフォーマンスを得ることができます。新しいソフトウェアが利用可能な場合は、アプリにインストール方法が表示されます。

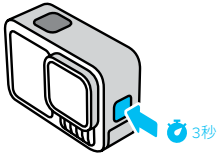
警告：アップデート中は、GoProからバッテリーやSDカードを取り出さないでください。アップデート中にバッテリーやSDカードを取り外すと、GoProが故障するおそれがあります。

GoProの操作方法

電源オン
カメラの電源をオンにするには、モードボタン を押します。



電源オフ
カメラの電源をオフにするには、モードボタン を3秒間長押しします。



警告：GoPro本体およびマウントやアクセサリーは、充分にご注意の上ご利用ください。使用者および周囲の人々に危険が生じないよう、使用時には常に周囲に気を配ってください。

現地の各種プライバシー法など、特定地域での録画を制限しうるすべての法律に従ってください。

GoProカメラの紹介

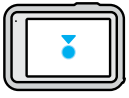
フロントスクリーンのオプション
フロントスクリーンの表示内容は4種類から選べます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. をタップして、フロントスクリーンの設定にアクセスします。
3. 目的の設定のアイコンをタップします。

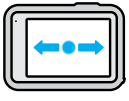
設定	説明
フルスクリーン	ライブプレビューをフルスクリーンショットとして表示します。表示用の画像はトリミングされていますが、映像自体はトリミングなしで撮影されます。
実際の画面	ライブプレビューをトリミングせずに表示します。
ステータスのみ	ライブプレビューの代わりにカメラのステータスを表示します。
画面オフ	画面をオフにします。画面の光が撮影に影響しかねない暗い環境では、この設定を使用します。画面をオフにすることでバッテリーは最も長くもちます。

GoProカメラの紹介

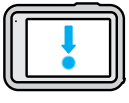
リアタッチスクリーンの使用



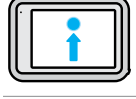
タップ
アイテムを選択します。



左右にスワイプ
ビデオ、写真、タイムラプスの3モードを
切り替えます。



画面の端から下にスワイプ
カメラのダッシュボードが開きます。



画面の端から上にスワイプ
最後に撮影した写真またはビデオを表示し、
メディアギャラリーにアクセスします。

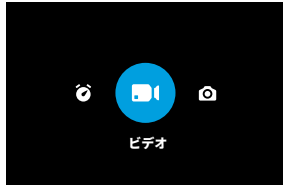


撮影画面を長押し
露出コントロールをオンにして調整します。

GOPROテク：リアスクリーンをタップすると、フロント / リアスクリーンでカメラのステータス情報とアイコンを非表示にできます。画面をもう一度タップするか、ボタンを押してすべてを元に戻します。

GoProカメラの紹介

撮影モード
GoProには、3つのメイン撮影モードがあります。



リアタッチスクリーンを使用して、左右にスワイプして目的のモードにします。

ビデオ (初期設定)
さまざまなアクションシーンの高品質ビデオを撮影します。

写真
汎用性抜群のアスペクト比8:7で27MP写真を撮影します。

タイムラプス
タイムラプスは、間隔を開けながらビデオフレームを撮影するモードで、長時間の出来事を短いビデオとして記録します。

GOPROテク：カメラの電源がオンになっている状態でモードボタンを押すと、モードを切り替えることができます。

ショットの撮影

ショットの撮影

1. GoProの電源がオンになっている状態でシャッターボタン ◯ を押すだけで、録画を開始できます。



2. シャッターボタン ◯ をもう一度押すと、録画が停止します (ビデオ、タイムラプス、ライブストリーミングのみ)。

QUIKCAPTUREを使用した録画

QuikCapture (クイックキャプチャー) を使用すると、瞬時にGoProの電源を入れて撮影を開始できます。シャッターボタンを押すだけです。

1. カメラの電源がオフの状態で、シャッターボタン ◯ を押します。



ショットの撮影

2. シャッターボタン ◯ をもう一度押すと、録画が停止し、カメラの電源がオフになります。
3. カメラが5秒のカウントダウンを開始します。カウントダウン中に、次の4つのオプションのいずれかを選択できます。
   a. シャッターボタンを押す：すぐに録画が再開します。
   b. モードボタン [モード] を押す：QuikCaptureが終了し、ビデオ撮影画面になります。
   c. モードボタンを長押しする：カメラの電源が即座にオフになります。
   d. カウントダウンが終了するまで待つ：カメラの電源が自動的にオフになります。

注意：QuikCaptureを使用すると、最後に使用したビデオ設定で録画が開始されます。

その他のビデオオプションについては、「*ビデオの録画 (39ページ)*」をご参照ください。

QuikCaptureをオフにする

QuikCaptureは初期設定でオンになっていますが、必要に応じてオフにできます。

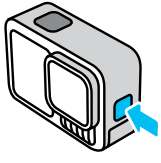
1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「一般」>「QuikCapture」の順にタップします。

GOPROテク：録画のときだけカメラの電源がオンになるQuikCaptureを使用すれば、バッテリー残量を最大限に引き延ばすことができます。

HiLightタグ

HILIGHTタグの追加

ビデオや写真のお気に入りの場面にマークを付けるには、撮影中や再生中にモードボタンを押します。HiLight (ハイライト) タグ を追加することで、映像の再生や編集などの際に、特定のショットを簡単に探せます。



音声コントロールを使用すれば、「GoPro、ハイライト」と発声する事によりHiLightタグを追加できます。また、GoPro Quik (クイック) アプリでも、映像を確認する際に をタップをしてHiLightタグの追加が可能です。

GOPROテク：Quikアプリは、ビデオを作成するときにHiLightタグを自動検索します。これにより、お気に入りの場面がハイライトビデオに含まれるようになります。

画面方向

画面方向のロック

カメラを回転させることで、撮影の横向きと縦向きを簡単に切り替えることができます。上下逆にマウントしても、正しい向きでビデオと写真が撮影できます。

シャッターボタンを押すと、カメラの方向がロックされます。ジェットコースターに乗っているときのように、カメラを録画中に傾けると、映像も傾きます。すべてのひねりや回転が表現されます。

横向きまたは縦向きに画面をロックできます。これは、ボディマウントやハンドヘルドマウントを使用している場合に特に便利です。このような状況では、意図せずカメラの向きが変わる可能性が大幅に高くなるからです。

リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。

1. カメラを目的の方向に向けます。
2. ダッシュボードの をタップします。

これで画面がロックされ、カメラの向きと一致します。

イージーコントロールの使用

イージーコントロールでは、GoProを向けてシャッターを押すだけで見事な映像を撮影できます。各モードには、ほとんどの撮影に適した汎用的なプリセットが含まれています。

フロントスクリーン

フロントLCDスクリーンには、カメラのステータスとレンズからのライブビューが表示されます。これにより、完璧にフレーミングされたショットを簡単に撮影できます。



1. 残りの録画時間 / 写真の枚数
2. バッテリーステータス
3. 現在のモード (ビデオ、写真、タイムラプス)
4. 撮影設定

イージーコントロールの使用

リアタッチスクリーン

リアタッチスクリーンでは、カメラの撮影設定にアクセスできます。



1. 現在のモード (ビデオ、写真、タイムラプス)
2. 残りの録画時間 / 写真の枚数
3. 画面上のショートカットのカスタマイズ
4. 撮影設定 / 中央のボタン
5. バッテリーステータス

注意：この撮影設定は、GoProで縦方向に撮影する場合には使用できません。カメラを回転させる前に、必要な設定を選択してください。

GOPROテク：モードボタン [MODE] を押すと、大半の画面からすばやくこの画面に戻ることができます。

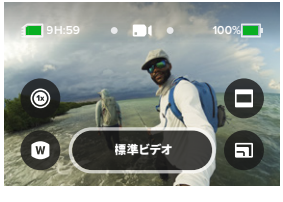
イージーコントロールの使用

モードの変更

1. リアタッチスクリーンを使用し、左右にスワイプして目的のモードにします。



2. 各撮影モードには、2つ以上の撮影オプションがあります。サブモードにアクセスするには、中央のボタンをタップします。



イージーコントロールの使用

3. スライダーを使用して利用可能なオプションを選択します。



ビデオのオプション

ビデオモードには、標準ビデオとHDRビデオの2つの撮影オプションがあります。中央のボタン 標準ビデオ をタップすると、これらのオプションが切り替わります。どのオプションでも、シャッターボタン ◯ を押すと録画が始まり、もう一度押すと停止します。

標準ビデオ (初期設定)
ほとんどのショットに適した設定です。標準形式のビデオを最大5.3Kの解像度で撮影します。

HDRビデオ
ハイダイナミックレンジ (HDR) を使用すると、影でつぶれてしまう部分や、明るさで白飛びしてしまう部分も、細部まで映像を鮮明に捉えることができます。明るい環境での撮影に最適です。

GoProテク： をタップすると、ビデオの品質を変更できます。

イージーコントロールの使用

写真モードのオプション

写真モードには3つの撮影オプションがあります。中央のボタン SuperPhoto をタップすると、これらのオプションが切り替わります。シャッターボタン ◯ を押すごとに、写真を1枚撮影できます。

SuperPhoto (初期設定)

ショットに最適な画像処理を適用して写真を1枚撮影します。すべての写真は27MPで撮影され、アスペクト比は汎用性抜群の8:7です。

バースト

照明条件に応じて、1秒間に最大30枚の写真を連続撮影します。速い動きのショットに最適です。

ナイトフォト

ショットにより多くの光が取り込まれるように、カメラのシャッター速度が自動的に調整されます。薄暗いシーンや暗いシーンに最適ですが、カメラが動くハンドヘルドやマウント撮影にはお勧めしません。

イージーコントロールの使用

タイムラプスモードのオプション

4つのタイムラプス撮影オプションがあります。中央のボタン TimeWarp をタップすると、これらのオプションが切り替わります。どのオプションでも、シャッターボタン ◯ を押すと録画が始まり、もう一度押すと停止します。

TimeWarp (初期設定)

TimeWarp (タイムワープ) ビデオブレ補正機能を使用すると、撮影者が動いている場合でも、驚くほど滑らかなタイムラプスビデオを簡単に撮影できます。撮影中に画面をタップすると、スピードランプが有効になります。スピードランプは、TimeWarp (タイムワープ) を現実の速度まで大幅に遅くする特殊効果です。画面をもう一度タップすると、元の速度に戻ります。

スタートレイル

カメラを安定した台または三脚に取り付けて、夜空に向けた状態で置いておくと、地球の自転に伴い、星々が夜空に光の軌跡を描きます。軌跡の長さは「最長」、「ロング」、「ショート」から選択することができます。

ライトトレイル

カメラを安定した台または三脚に取り付け、夜間の車のヘッドライトが作り出す眩い光跡を撮影します。軌跡の長さを「最長」、「ロング」、「ショート」から選択してください。

ライトペインティング

ライトペインティングは、長時間の露出を使用することにより、動く光によるブラシストロークのエフェクトを創り出します。カメラを安定した台または三脚に取り付け、懐中電灯、ライトスティック、その他の光る物を手に持ってクリエイティブな撮影に挑戦しましょう。

イージーコントロールの使用

撮影設定の調整

撮影設定は、画面上のショートカットから簡単に調整できます。各モードでは、画面上のショートカットから、スローモーション速度、デジタルレンズ、フレーミングなどの撮影設定に簡単にアクセスできます。

1. 調整したい設定のショートカットをタップします。



2. スライダーを使用して設定を調整します。



イージーコントロールの使用

撮影設定のオプション

使用できる設定は、モードによって異なります。また、ショット用に選択した速度、レンズ、フレームによっても異なります。

速度 (ビデオ)
GoProでのビデオ撮影を、通常速度 (1倍)、2倍スローモーション、4倍スローモーション、または8倍スローモーションに設定します。2倍スローモーション以上で撮影したビデオはすべて、スローモーションでも通常速度でも再生できます。

詳細については、「*フレーム/秒 (FPS) (117ページ)*」をご参照ください。

レンズ (ビデオ、写真、ラプス)
GoProでのデジタルレンズの切り替えは、従来のカメラでのレンズ交換と同様の効果があります。レンズは、ショットの視野角、クロップ、魚眼効果に影響します。このGoProでは、広角、リニア、リニア + 水平ロック / 水平維持、SuperView、HyperViewの各デジタルレンズを選択できます。

詳細については、「*デジタルレンズ (ビデオ) (118ページ)*」をご参照ください。

フレーミング (ビデオ、ラプス)
GoProの撮影設定には、テレビでのフルスクリーン再生やYouTubeへの投稿に適したワイドスクリーン (16:9フレーム / アスペクト比)、スマートフォンでの再生やSNSへのシェアに適した縦向き (超縦長の9:16フレーム / アスペクト比)、フルフレーム (8:7フレーム / アスペクト比) があります。フルフレームを使うと、GoPro Quikアプリを使って映像をワイドスクリーンまたはモバイルショット用に柔軟にクロップできます。

詳細については、「*地域フォーマット (90ページ)*」をご参照ください。

イージーコントロールの使用

ビデオ品質 (ビデオ、ラプス)
最高画質 (5.3Kビデオ解像度)、標準画質 (4Kビデオ解像度)、または基本画質 (1080pビデオ解像度) から選択できます。

詳細については、「*ビデオ品質のオプション (イージーコントロール) (112ページ)*」をご参照ください。

タイマー (写真、バーストフォト)
シャッターボタン ◯ を押してから3秒または10秒後に写真を撮影するよう、タイマーを設定できます。タイマーを使用して、自撮りや集合写真などを撮影しましょう。

間隔 (写真)
インターバル撮影で、GoProが写真を撮影する頻度を0.5秒間隔～120秒間隔の間で選択できます。

詳細については、「*間隔 (インターバル撮影) (128ページ)*」をご参照ください。

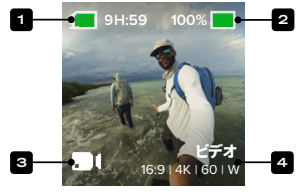
軌跡の長さ (ラプス)
スタートレイル、ライトペインティング、ライトトレイルの各プリセットで録画するときに、光の軌跡の長さを設定できます。切れ目のない軌跡を撮影するなら「最長」に設定します。他に「ロング」と「ショート」を選択できます。

プロコントロールの使用

プロコントロールを使用することで、GoProのプリセット設定を解除して、すべてのモード、設定、機能を思いのままにコントロールできるようになります。

フロントスクリーン

フロントLCDスクリーンには、カメラのステータスとレンズからのライブビューが表示されます。これにより、完璧にフレーミングされたショットを簡単に撮影できます。



1. 残りの録画時間 / 写真の枚数
2. バッテリーステータス
3. 現在のモード (ビデオ、写真、タイムラプス)
4. 撮影設定

プロコントロールの使用

リアタッチスクリーン
リアタッチスクリーンでは、カメラの撮影設定にアクセスできます。



1. 現在のモード (ビデオ、写真、タイムラプス)
2. 残りの録画時間 / 写真の枚数
3. 画面上のショートカットのカスタマイズ
4. 撮影設定 / 中央のボタン
5. バッテリーステータス

注意：この撮影設定は、GoProで縦方向に撮影する場合には使用できません。カメラを回転させる前に、必要な設定を選択してください。

GOPROテク：モードボタン [MODE] を押すと、大半の画面からすばやくこの画面に戻ることができます。

プロコントロールの使用

プロの撮影モード
ビデオ (初期設定)
ビデオとバーストスローモーションのプリセットが用意されています。
詳細については、「*ビデオの録画 (39ページ)*」をご参照ください。

写真
写真、バースト、ナイトフォトのプリセットが用意されています。

詳細については、「*写真撮影 (45ページ)*」をご参照ください。

タイムラプス
TimeWarp、スタートレイル、ライトペインティング、ライトトレイル、タイムラプス、ナイトラプスのプリセットが用意されています。

詳細については、「*タイムラプスの撮影 (50ページ)*」をご参照ください。

注意：GoProの電源をオンにした際に読み込まれるプリセットを選択できます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「一般」>「初期設定プリセット」の順にタップします。

コントロールの切り替え
初期設定はイージーコントロールですが、数回のスワイプとタップで簡単にプロコントロールに切り替えることができます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「コントロール」をタップすると、イージーコントロールとプロコントロールが切り替わります。

プロコントロールのプリセットとショートカット

プリセットの変更

各撮影モードには複数のプリセットが用意されています。プリセットを選ぶだけで、ショットに最適なモードと設定を簡単に切り替えることができます。

1. 撮影画面で、中央のボタン ビデオ 16:9 | 4K | 30 | W をタップします。
2. リスト内の目的のプリセットをタップします。プリセットの設定がすべて読み込まれ、カメラの準備が完了します。

プリセットのカスタマイズ

数回タップするだけで、プリセットの設定を変更できます。

1. 撮影画面で、をタップします。
2. 変更したい設定をタップします。
3. スライダーを使用してオプションをスクロールします。オプションの内容については画面上に説明が表示されます。設定の詳細については、「*仕様：ビデオ (112ページ〜)*」をご参照ください。
4. 下にスクロールして、高度なProtune (プロチューン) 設定にアクセスします。詳細については、「*Protune (137ページ〜)*」をご参照ください。
5. スクロールして上まで戻り、をタップして変更を保存し、プリセット画面に戻ります。

*注意：*予めカメラに登録されているプリセットは削除できませんが、好みに合わせてカスタマイズすることができます。また、独自のカスタムプリセットを作成することもできます。

詳細については、「*独自のプリセットの作成 (36ページ)*」をご参照ください。

GOPROテク：カスタマイズするプリセットの中央のボタン ビデオ 16:9 | 4K | 30 | W の長押しでも、設定メニューに移動できます。

プロコントロールのプリセットとショートカット

プリセットの非表示と並べ替え

現在使用していないプリセットを非表示にしたり、リストを並べ替えたりすることで、プリセットを管理できます。

1. 撮影画面で、中央のボタン ビデオ 16:9 | 4K | 30 | W をタップします。
2. プリセットのリストで、右上隅のをタップします。
3. 非表示にするプリセットの横にある をタップします。
4. プリセットをタップして長押しすると、プリセットを移動して自由に並べ替えることができます。
5. をタップして変更を保存し、プリセット画面に戻ります。

プリセットを元の設定に戻す

撮影モードのプリセットをすべて元に戻す

撮影モードのすべてのプリセットの設定は、いつでも元に戻すことができます。

1. プリセット画面で、をタップします。
2. をタップして、すべてのプリセットを元の設定に戻します。
3. 「リセット」が表示されたらタップします。

GoProテク：すべてのモードの全プリセットを同時に元に戻すこともできます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「リセット」>「プリセットのリセット」の順にタップします。

個別のプリセットを元に戻す

個別のプリセットを元の設定に戻すこともできます。

1. 撮影画面で、中央のボタン ビデオ 16:9 | 4K | 30 | W をタップします。
2. リスト内の元に戻したいプリセットをタップします。
3. 設定リストの一番下までスクロールし、「元に戻す」をタップします。

独自のプリセットの作成

ゲレンデ向けの設定と、屋内向けの設定は異なります。カスタムプリセットを使用すると、どちらのシーンの設定も保存しておき、すぐに切り替えられます。

プリセットを最初から作成する

1. 新しいプリセットを使用する撮影モードを、ビデオ、写真、タイムラプスの中から選択します。
2. プリセットのリストの最後までスクロールして、「新規プリセットを作成」をタップします。
3. 新しいプリセットで使用する設定をタップします。終了したら、✓ をタップします。
4. プリセットのアイコンと名前を選択します。名前のリストから選択することも、カメラ内キーボードを使用して独自の名前を付けることもできます。注意：中国語、韓国語、日本語の文字はサポートされていません。
5. ✓ をタップして、プリセットを保存します。

GOPROテク：GoPro Quikアプリを使用して、新しいプリセットに好きな名前を付けることもできます。

既存のプリセットの変更内容を保存する

1. 変更したいプリセットの撮影設定に移動します。
2. 「設定」をタップして、プリセットに変更を加えます。
3. 設定リストの最後までスクロールして、 名前を付けて保存 をタップします。
4. プリセットのアイコンと名前を選択します。
5. ✓ をタップして、プリセットを保存します。

GOPROテク：試した後にプリセットの微調整が必要になる場合があります。 をタップして変更を加えます。

プリセットを削除する

1. プリセットの設定に移動します。
2. 設定リストの最後までスクロールして、 消去 をタップします。

ダッシュボード設定のオーバーライド

プリセットのダッシュボード設定をカスタマイズできます。具体的には、音声コントロール、カメラの電子音、スクリーンセーバー、画面ロック、フロントスクリーン、方向ロック、LEDの設定を、特殊なショット用のプリセットに合わせて調整できます。

たとえば、夜間の映像用のプリセットを設定できます。この場合、光がショットに干渉しないよう、ダッシュボードの設定をオーバーライドしてフロントスクリーンとLEDをオフにします。

ダッシュボードのオーバーライドのセットアップ

1. 調整するプリセットの撮影画面で、 をタップします。
2. ダッシュボードセクションが表示されるまで設定をスクロールします。
3. 調整する設定をタップします。
4. スライダーを使用して設定を調整します。

*注意：*オーバーライドは、調整対象のプリセットにのみ適用されます。他のプリセットを使用しているときにダッシュボードに加えた調整は、ダッシュボードのオーバーライドを使用するプリセットには適用されません。

詳細については、「*ダッシュボードの使用 (83ページ)*」をご参照ください。

プロコントロールのプリセットとショートカット

画面上のショートカットのカスタマイズ

画面上のショートカットを使用すると、カメラの撮影設定に1回のタップですばやくアクセスできます。モードごとに異なるショートカットが予め用意されていますが、最もよく使用する設定に変更できます。プリセットごとに異なるショートカットを設定することもできます。

撮影画面で設定する

1. 撮影画面で、切り替えたいショートカットを長押しします。
2. 右側にある使用可能なすべてのショートカットをスクロールして、目的のショートカットを選択します。

プリセット画面で設定する

1. 調整するプリセットの横にある をタップします。
2. 「ショートカット」まで下にスクロールします。
3. 新しいショートカットを追加する場所をタップします。
4. 使用可能なすべてのショートカットをスクロールして、目的のものを選択します。

ほぼすべての撮影設定とProtune設定をショートカットにできます。「*仕様 (112ページ〜)*」および「*Protune (137ページ〜)*」をご参照ください。

ビデオの録画

プロコントロールのビデオには2つのプリセットが用意されています。高品質の標準ビデオを撮影するためのプリセットと、超スローモーションで短いビデオクリップを撮影するためのプリセットです。

ビデオのプリセット

ビデオ (初期設定)
ビデオモードでは、標準的なHD 1080pからプロ並みの5.3Kまで、幅広い解像度から柔軟に選択できます。また、フレームレートやアスペクト比なども自在に制御できます。

GOPROテク：満足できる内容に設定し終えたら、プリセットとして保存します。これにより、よく使用する複数の設定をわずか数タップで切り替えられるようになります。

バーストスローモーション
バーストスローモーションでは、驚異的な高フレームレートで短いビデオクリップを撮影できます。通常速度の最大13分の1の滑らかな超スローモーション映像の撮影が可能です。

詳細については、「*バーストスローモーション (125ページ)*」をご参照ください。

画面上のショートカット
ビデオのプリセットには初期設定で4つのショートカットが用意されていますが、別のショートカットと自由に置き換えることができます。

詳細については、「*画面上のショートカットのカスタマイズ (38ページ)*」をご参照ください。

HyperSmooth
HyperSmooth (ハイパースムーズ) のショートカットでは、ショットのビデオブレ補正のレベルを「オフ」、「オン」、「自動ブースト」の中から簡単に選択できます。HyperSmoothオプションは、選択したビデオ解像度とフレームレートによって異なる場合があります。

GOPROテク：録画開始前にズームを使用してショットをクロップすることで、より一層映像を滑らかにすることができます。これにより、カメラがビデオのブレを補正する際に使える余地が広がるためです。また、「リニア + 水平ロック」デジタルレンズを使用するとブレ補正も強化されます。

詳細については、「*HyperSmoothビデオブレ補正 (124ページ)*」をご参照ください。

デジタルレンズデジタルレンズのショートカットをタップし、広角、リニア、リニア + 水平ロック / 水平維持、SuperView、HyperViewの中から、使用するレンズを選択します。一部のレンズは、一部のフレームレートでのみ機能します。レンズを交換すると、必要に応じてGoProが自動的にフレームレートを調整します。

GOPROテク：リニア + 水平ロック / 水平維持デジタルレンズを使用すると、水平がしっかりと維持された、シネマティックなプロ品質のビデオを撮影することができます。

詳細については、「*水平ロック / 水平維持 (123ページ)*」をご参照ください。

フレーミング
GoProで撮影する映像の設定を、ワイドスクリーン (アスペクト比16:9)、縦向き (アスペクト比9:16)、従来型 (アスペクト比4:3)、フルフレーム (アスペクト比8:7) の中から選択します。

詳細については、「*地域フォーマット (90ページ)*」をご参照ください。

設定
設定のショートカットから設定メニューに直接移動できます。そこで、選択したプリセットのすべての設定と機能にアクセスできます。

GOPROテク：カメラの設定はGoPro Quikアプリでも変更できます。

設定の調整
ビデオの設定にアクセスして調整するには、設定のショートカット をタップします。

タップして必要な変更を加えます。<をタップすると、変更内容をプリセットに保存できます。または、+をタップするか、下にスクロールして「名前を付けて保存」を選択し、変更内容を新しいプリセットとして保存することもできます。



注意：使用できる設定は、選択したフレーミング、解像度、フレームレート、さらにHDR録画のオン / オフによって異なります。

ビデオの録画

詳細については、以下をご参照ください。

- *標準、HDR、HLG HDR、Logビデオ (113ページ)*
- *地域フォーマット (90ページ)*
- *ビデオの解像度 (RES) (115ページ)*
- *フレーム/秒 (FPS) (117ページ)*
- *デジタルレンズ (ビデオ) (118ページ)*
- *HyperSmoothビデオブレ補正 (124ページ)*
- *バーストスローモーション (125ページ)*

撮影設定

撮影設定は、完璧なショットを撮影しやすくすることに特化した設定とツールです。アクセスするには、まず設定のショートカットをタップし、次に「撮影」セクションが表示されるまで下にスクロールします。

スケジュールキャプチャー
GoProの電源が自動的にオンになって録画を開始するように設定できます。

詳細については、「*スケジュールキャプチャー (61ページ)*」をご参照ください。

時間
カメラが自動的に録画を停止するまでの時間を選択します。

詳細については、「*デュレーションキャプチャー (60ページ)*」をご参照ください。

HindSight
HindSight (ハインドサイト) をオンにすると、シャッターボタンを押す前の15秒または30秒のビデオを保存するように設定できます。

詳細については、「*HindSight (58ページ)*」をご参照ください。

ビデオの録画

タイマー
シャッターボタンを押してから3秒または10秒後にビデオの録画を開始するように設定できます。

ズーム
タッチズームを使用すると、アクションをクローズアップ撮影できます。右側のスライダーを使用して、ズームレベルをロックします。

間隔 (ビデオループ)
ループバックしてビデオの先頭から重ね撮りするまでの、GoProの録画時間を選択します。初期設定の間隔は5分です。

詳細については、「*ビデオループ (44ページ)*」をご参照ください。

PROTUNE

Protune設定は撮影設定の下にあります。Protuneでは、HLG HDR、ビットレート、ビット深度、色、ISO上限、露出などの詳細設定を手動で制御できます。

詳細については、「*Protune (137ページ)*」をご参照ください。

オーディオ

「Protune」セクションの下までスクロールすると、オーディオの詳細設定にアクセスできます。これらの設定では、RAWオーディオ、オーディオ調整、ウィンドノイズ低減、メディアモッドをオンにできます。

詳細については、「*仕様：オーディオ (145ページ)*」をご参照ください。

ダッシュボード

「オーディオ」セクションの下までスクロールすると、ダッシュボードのオーバーライドにアクセスできます。ここで、プリセットのダッシュボード設定をカスタマイズできます。

詳細については、「*ダッシュボード設定のオーバーライド (37ページ)*」をご参照ください。

ビデオの録画

ショートカット
画面上のデフォルトのショートカットを最もよく使用する設定に変更し、すばやく簡単にアクセスできるようにします。

詳細については、「*画面上のショートカットのカスタマイズ (38ページ)*」をご参照ください。

ビデオループ
ループを使用すると、気に入った瞬間を撮影できるまで連続的にループ録画することで、SDカードの容量を節約できます。何かが起こるのを待っているとき (釣りなど) や、何も起こらないかもしれないとき (車載カメラなど) に使用します。

仕組み：

- ループの間隔を5分に設定すると、シャッターボタン ◯ を押して録画を停止した直前の5分間のみが保存されます。
- 5分間録画してシャッターボタン ◯ を押さなかった場合、カメラはループバックして、ビデオの最初から重ね撮りします。

GoProを5分 (初期設定)、20分、60分、120分のループ録画をするよう設定できます。また、「最大」と設定することも可能です。この場合、カメラはSDカードがいっぱいになるまで録画し、その後ループバックしてビデオの先頭から重ね撮りします。

ビデオループの設定
ビデオループを撮影するには、新しいプリセットを設定し、撮影モードとして「ループ」を選択する必要があります。

詳細については、「*独自のプリセットの作成 (36ページ)*」をご参照ください。

写真撮影

プロコントロールの写真モードには3つのプリセットが用意されています。写真はすべて、8:7のアスペクト比を使って、27MPで撮影されます。3つのプリセットのいずれもデジタルレンズの初期設定は「広角」です。

写真のプリセット
写真 (初期設定)
このプリセットを使用すると、SuperPhoto (スーパーフォト) 画像処理が適用された写真を撮影できます。

バースト
バーストでは、1秒間に最大30枚 (照明条件によって変わります) の写真を自動的に撮影します。

ナイトフォト
光量の少ない暗い場所での撮影時に、GoProのシャッター速度を自動的に調整します。

画面上のショートカット
写真のプリセットには初期設定で4つのショートカットが用意されていますが、別のショートカットと自由に置き換えることができます。

詳細については、「*画面上のショートカットのカスタマイズ (38ページ)*」をご参照ください。

写真タイマー
シャッターボタン ◯ を押してから3秒または10秒後に写真が撮影されるように設定できます。

*注意：*低光量での不鮮明なショットとならないよう、ナイトフォトモードに切り替えるとタイマーは自動的に3秒に設定されます。

デジタルレンズ
デジタルデンズのショートカットをタップすると、広角レンズとリニアレンズが切り替わります。

詳細については、「*デジタルレンズ (写真) (129ページ)*」をご参照ください。

インターバル撮影
このショートカットをタップすると、インターバル撮影で、GoProが写真を撮影する頻度を0.5秒間隔～120秒間隔の間で選択できます。

詳細については、「*間隔 (インターバル撮影) (128ページ)*」をご参照ください。

設定
設定のショートカットから設定メニューに直接移動できます。そこで、選択したプリセットのすべての設定と機能にアクセスできます。

GOPROテク：設定はGoPro Quikアプリでも変更できます。

設定の調整

写真の設定にアクセスして調整するには、設定のショートカット をタップします。

タップして必要な変更を加えます。 をタップすると、変更内容をプリセットに保存できます。または、 をタップするか、下にスクロールして「名前を付けて保存」を選択し、変更内容を新しいプリセットとして保存することもできます。

写真で使用したい任意の設定をタップします。



詳細については、「*デジタルレンズ (写真) (129ページ)*」をご参照ください。

撮影設定

撮影設定は、完璧なショットを撮影しやすくすることに特化した設定とツールです。アクセスするには、まず設定のショートカット をタップし、次に「撮影」セクションが表示されるまで下にスクロールします。

出力
ショットの処理タイプとファイルの保存方法を設定します。SuperPhoto、HDR、標準、またはRAW形式から選択ができます。

詳細については、以下をご参照ください。

- *SuperPhoto (126ページ)*
- *ハイダイナミックレンジ (HDR) (126ページ～)*
- *RAW形式 (130ページ)*

間隔 (写真)
インターバル撮影で、GoProが写真を撮影する頻度を0.5秒間隔～120秒間隔の間で選択します。

詳細については、「*間隔 (インターバル撮影) (128ページ)*」をご参照ください。

写真撮影

期間 (写真)
自動でインターバル撮影を行う際に、カメラが停止するまでの時間の長さを選択します。

詳細については、「*デュレーションキャプチャー (60ページ)*」をご参照ください。

スケジュールキャプチャー
GoProの電源が自動的にオンになって録画を開始するように設定できます。

詳細については、「*スケジュールキャプチャー (61ページ)*」をご参照ください。

タイマー
シャッターボタン ◯ を押してから3秒または10秒後に写真が撮影されるように設定できます。

注意：低光量での不鮮明なショットとならないよう、ナイトフォトモードに切り替えるとタイマーは自動的に3秒に設定されます。

ズーム
タッチズームを使用すると、アクションをクローズアップ撮影できます。右側のスライダーを使用して、ズームレベルをロックします。

連写レート (バースト)
1秒、3秒、6秒、10秒のバースト中に、カメラが連写する写真の枚数を選択します。

詳細については、「*バーストレート (129ページ)*」をご参照ください。

シャッター (ナイトフォト)
夜間の撮影時に、カメラのシャッターを開いたままにする時間を設定します。暗い場所での撮影では長めの露出を選択してください。

詳細については、「*シャッター速度 (128ページ)*」をご参照ください。

写真撮影

PROTUNE
Protuneの設定は撮影設定にあります。Protuneでは、カラー、ISO上限、露出などの詳細設定を手動で制御できます。

詳細については、「*Protune (137ページ〜)*」をご参照ください。

ダッシュボード
「Protune」セクションの下までスクロールすると、ダッシュボードのオーバーライドにアクセスできます。ここで、プリセットのダッシュボード設定をカスタマイズできます。

詳細については、「*ダッシュボード設定のオーバーライド (37ページ)*」をご参照ください。

ショートカット
画面上のデフォルトのショートカットを最もよく使用する設定に変更し、すばやく簡単にアクセスできるようにします。

詳細については、「*画面上のショートカットのカスタマイズ (38ページ)*」をご参照ください。

タイムラプスの撮影

このGoProには6つのタイムラプスプリセットが用意されています。それぞれのプリセットで、ショットのアスペクト比、解像度、レンズの切り替えなどを変更できます。

タイムラプスのプリセット

TimeWarp (初期設定)
移動しながら驚くほど滑らかなタイムラプス映像を撮影できます。スピードランプ機能により、録画中に画面をタップするとコンテンツが現実の速度にまで大幅に減速します。画面をもう一度タップすると、元の速度に戻ります。

スタートレイル
GoProを安定した台などに取り付けて夜空に向けると、全天に弧を描く光跡を撮影できます。

ライトペインティング
GoProを安定した台などに取り付け、懐中電灯、ライトスティック、その他の光る物を手に持って、クリエイティブな撮影に挑戦しましょう。

ライトトレイル
GoProを安定した台などに取り付け、夜間の車のヘッドライトが作り出す眩い光跡を撮影できます。

タイムラプス
このプリセットを使用すると、マウントされて静止した状態のカメラからタイムラプスビデオや写真を撮影できます。

ナイトラプス
ナイトラプスを使用すると、光量の少ない暗い場所でタイムラプスビデオや写真を撮影できます。

タイムラプスの撮影

画面上のショートカット

タイムラプスのプリセットは使用する撮影モードにより異なりますが、別のショートカットと自由に置き換えることができます。

詳細については、「*画面上のショートカットのカスタマイズ (38ページ)*」をご参照ください。

デジタルレンズ
デジタルレンズのショートカットをタップすると、レンズが切り替わります。利用できるレンズは、使用中の撮影モードによって異なります。

詳細については、「*デジタルレンズ (写真) (129ページ)*」をご参照ください。

フレーミング
GoProで撮影する映像の設定を、ワイドスクリーン (アスペクト比16:9)、縦向き (アスペクト比9:16)、フルフレーム (アスペクト比8:7) の中から選択します。

詳細については、「*地域フォーマット (90ページ)*」をご参照ください。

写真タイマー (スタートレイル、ライトペインティング、ライトトレイル)
シャッターボタン ◯ を押してから3秒または10秒後に写真が撮影されるように設定できます。

軌跡の長さ (スタートレイル、ライトペインティング、ライトトレイル)
ナイトエフェクトのプリセットを使用して録画するときの光跡の長さを設定します。

設定
設定のショートカットから設定メニューに直接移動できます。そこで、選択したプリセットのすべての設定と機能にアクセスできます。

GOPROテク：カメラの設定はGoPro Quikアプリでも変更できます。

設定の調整

タイムラプスの設定にアクセスして調整するには、設定のショートカット をタップします。

タップして必要な変更を加えます。 をタップすると、変更内容をプリセットに保存できます。または、 をタップするか、下にスクロールして「名前を付けて保存」を選択し、変更内容を新しいプリセットとして保存することもできます。



*注意：*使用できる設定は、選択したタイムラプスモードによって異なります。

詳細については、以下をご参照ください。

- *ビデオの解像度 (RES) (115ページ)*
- *デジタルレンズ (写真) (129ページ)*
- *地域フォーマット (90ページ)*

撮影設定

撮影設定は、完璧なショットを撮影しやすくすることに特化した設定とツールです。アクセスするには、まず設定のショートカット をタップし、次に「撮影」セクションが表示されるまで下にスクロールします。

速度 (TimeWarp)
TimeWarpの速度は自由に設定できます。また、「自動」(初期設定) のままにすると、動き、シーン検出、照明に応じてGoProが自動的に速度を調整します。

詳細については、「*タイムワープビデオの速度 (131ページ)*」をご参照ください。

スケジュールキャプチャー
GoProの電源が自動的にオンになって録画を開始するように設定できます。

詳細については、「*スケジュールキャプチャー (61ページ)*」をご参照ください。

時間
カメラが自動的に録画を停止するまでの時間を選択します。

詳細については、「*デュレーションキャプチャー (60ページ)*」をご参照ください。

タイマー
シャッターボタン を押してから3秒または10秒後にビデオの録画を開始するように設定できます。

ズーム
タッチズームを使用すると、アクションをクローズアップ撮影できます。右側のスライダーを使用して、ズームレベルをロックします。

軌跡の長さ (スタートレイル、ライトペインティング、ライトトレイル)
ナイトエフェクトのプリセットを使用するときの光跡の長さを設定します。切れ目のない軌跡を撮影するなら「最長」に設定します。他に「ロング」と「ショート」を選択できます。

間隔 (タイムラプス)
カメラが1フレームのビデオや1枚の写真を撮影する頻度を選択します。

詳細については、「*タイムラプスの間隔 (134ページ)*」をご参照ください。

間隔 (ナイトラプス)
低光量や超低光量の場合に、カメラが写真を撮影する頻度を設定します。動きや光量が多い場合は、短めの間隔を選択します。動きや光がほとんどない場合は、長い間隔を使用します。

詳細については、「*ナイトラプスの間隔 (136ページ)*」をご参照ください。

出力 (タイムラプスフォト、ナイトラプスフォト)
写真を標準のjpgまたはRAWファイルとして保存します。

詳細については、「*RAW形式 (130ページ)*」をご参照ください。

シャッター (ナイトラプス)
夜間の撮影時に、カメラのシャッターを開いたままにする時間を設定します。

詳細については、「*シャッター速度 (ナイトフォトとナイトラプスフォト) (128ページ)*」をご参照ください。

PROTUNE
Protuneの設定は撮影設定にあります。Protuneでは、ビット深度、ホワイトバランス、ISOなどの詳細設定を手動で制御できます。

*注意：*使用できる設定は、選択したタイムラプスモードによって異なります。

詳細については、「*Protune (137ページ～)*」をご参照ください。

ダッシュボード
「Protune」セクションの下までスクロールすると、ダッシュボードのオーバーライドにアクセスできます。ここで、プリセットのダッシュボード設定をカスタマイズできます。

詳細については、「*ダッシュボード設定のオーバーライド (37ページ)*」をご参照ください。

ショートカット
画面上のデフォルトのショートカットを最もよく使用する設定に変更し、すばやく簡単にアクセスできるようにします。

詳細については、「*画面上のショートカットのカスタマイズ (38ページ)*」をご参照ください。

ライブストリーミング + ウェブカメラモード

ライブストリームの設定

1. GoPro Quikアプリに接続します。詳細については、「*GoPro Quikアプリへの接続 (75ページへ)*」をご参照ください。
2. アプリで をタップして、カメラを制御します。
3. をタップした後、 をタップし、指示に従ってライブストリームを設定します。

詳しい手順については、**gopro.com/live-stream-setup**をご参照ください。

GOPROをウェブカメラとして使用する

ライブ配信するには、GoProとパソコンの両方がウェブカメラモードに設定されている必要があります。カメラは初期設定でウェブカメラモードになっています。USB-Cケーブルを使用してカメラをパソコンに接続し、**gopro.com/webcam**の手順に従ってセットアップします。

パワーツール

撮影の新たな可能性を広げるGoProのパワーツールなら、シャッターボタンを押すだけでは捉えられない瞬間も撮影できます。

インターバル撮影

アクティビティに夢中になっている瞬間も、見事なハンズフリーショットを簡単に撮影できます。ハンドルバーやスキーのストック、トウロープなどで手がふさがっている場合にお試しください。カメラをGoProバックパックのストラップに装着しておけば、ハイキング中や新しい場所の探索中に、一連の写真を撮影することもできます。

機能の仕組み

インターバル撮影では、一定間隔で写真が撮影されるため、目の前のアドベンチャーに集中できます。撮影間隔は自分で決められるので、短時間のアクティビティには短めの間隔、長旅には長めの間隔を設定してみてください。後から一連の写真全体に目を通し、すべてを保存することも、ベストショットだけを残すこともできます。

インターバル撮影の設定と使用

1. GoProが写真モードの状態で、 インターバル撮影のショートカットをタップします。
2. 撮影間隔を設定します。
3. シャッターボタン を押して、写真の撮影を開始します。再度シャッターボタンを押して停止するまで撮影が続きます。

HINDSIGHT

HindSightは、シャッターボタンを押した時点から最大30秒前までさかのぼってビデオを撮影できる機能です。決定的瞬間を撮り逃した場合でも、この機能があれば安心です。

機能の仕組み

お子さんのプレーが試合の勝敗を決めたシーンを想像してみてください。これは、見逃したくない瞬間です。HindSightをオンにして、ショットをフレーミングします。ここで録画を開始する必要はありません。ファインプレーを目にしたら、シャッターボタン ◯ を押しましょう。HindSightにより、シャッターボタンを押す最大30秒前からのビデオが保存されます。録画はシャッターボタンを再び押して停止するまで続きます。

HindSightのセットアップ

1. ビデオのプリセットを選択したら、設定のショートカット ⚙ をタップして設定メニューに移動します。
2. 撮影設定まで下にスクロールし、「HindSight」をタップします。
3. HindSightを15秒または30秒に設定します。

HindSightの使用

シャッターボタン ◯ を押して任意のタイミングで録画を開始します。HindSightバッファーがいっぱいになると、画面の上部中央にあるインジケータが青色に変わります。この状態のカメラには、15秒または30秒前からのビデオが記録されています。シャッターボタン ◯ を押して録画を開始した場合にのみ、ビデオは保存されます。

*注意：*HindSightでの撮影を開始する前に、撮影設定を完了してください。HindSightがオンになったら、設定は変更できなくなります。

HindSightの停止と一時停止

また「停止HindSight」をタップして、HindSightをキャンセルし、バッテリーの電力を節約することもできます。またHindSightをオンにした後、15分経っても録画が開始されない場合、カメラ内でHindSightが一時停止されます。これもバッテリーの電力を節約するための機能です。

*注意：*HindSightは、機能を有効にしている間 (録画していない時でも) ビデオを撮影し続ける機能です。使用方法によっては、通常のビデオモードで録画するよりも、カメラのバッテリーを速く消費します。

デュレーションキャプチャー

デュレーションキャプチャーを使用すると、GoProが録画を開始し、自動的に停止するまでの時間を設定できます。ビデオ、TimeWarp (タイムワープ)、タイムラプス、ナイトラプスの各モードで、15秒単位で3時間まで選択できます。

デュレーションキャプチャーのセットアップと使用

1. 設定のショートカット をタップして設定メニューに移動します。
2. 「時間」をタップします。
3. スライダーを使用して、ショットの長さを選択します。
4. シャッターボタン を押して録画を開始します。GoProは、設定された時間が経過すると自動的に録画を停止します。

*注意：*デュレーションキャプチャーでは、GoProが録画する時間を設定します。最終的なビデオの長さは、使用しているモードによって異なります。タイムワープビデオおよびタイムラプスビデオで撮影した場合、保存される動画は設定した時間より短くなります。

GOPROテク：「制限なし」を選択すると、時間制限なしで映像を撮影できます。録画を停止するには、シャッターボタン を押します。

スケジュールキャプチャー

スケジュールキャプチャーでは、GoProが自動的にオンになってショットを撮影するよう、最大24時間前から設定できます。すべてのプリセットで使用できます。

スケジュールキャプチャーのセットアップと使用

1. 設定のショートカット をタップして設定メニューに移動します。
2. 「スケジュールキャプチャー」をタップします。
3. GoProで撮影をするタイミングを設定します。
4. 時刻の設定後は、GoProの電源をオフにすることも、カメラの他のプリセットを引き続き使用することもできます。

*注意：*撮影後もGoProはオンのままになります。「ユーザー設定」で指定した時間にわたりアイドル状態になると、自動的にオフになります。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「一般」>「電源の自動オフ」の順にタップします。

GOPROテク：スケジュールキャプチャーを使用する場合は、デュレーションキャプチャーを使用してショットの長さを選択しましょう。撮影後、自動的にカメラの録画が停止されます。デュレーションキャプチャーを使用していない場合は、シャッターボタン を押して録画を停止する必要があります。

露出コントロール

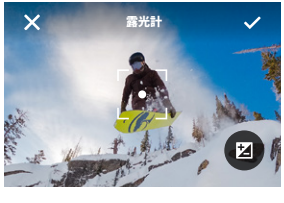
GoProはシーン全体をスキャンして、撮影の露光レベルを選択します。露出コントロールを使うと、撮影画面から選んだ一領域に合わせて露光量を設定できます。

タッチスクリーンで映像のプレビューを確認します。暗すぎる部分や明るすぎる部分がある場合は、露出コントロールを試してください。

露出コントロールの設定

晴れた日にスノーボードを楽しんでいる場合などは、被写体のジャケットに露出をロックするとよいでしょう。これにより、非常に明るい雪に反応してショットが露出アンダー (黒つぶれ) になることを防止できます。

1. 四角い枠が表示されるまで、リアタッチスクリーンの任意の場所をタップして押し続けます。露出は四角い枠内に基づいて調整されます。



GOPROテク：画面の中央をタップして押し続けると、露光計が表示されます。画面中央の露光に基づいて露出を設定します。

露出コントロール

2. 画面の他の領域に四角い枠をドラッグすることで露出を変更できます。



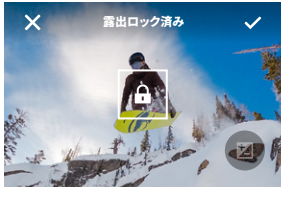
3. 明るさは、 をタップして微調整できます。この手順により、露出値の補正 (EV値) を調整できます。



上にスライドすると、画像が明るくなります。下にスライドすると暗くなります。露出補正は-2.0～+2.0までで調節できます。

露出コントロール

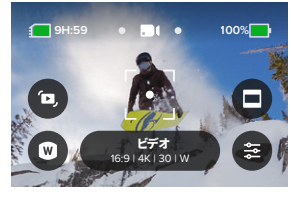
4. 画面をチェックして、露出が適正に見えるかどうかを確認します。四角い枠の内側をタップして、露出をロックします。露出がロックされると、四角い枠の中に が表示されます。 をタップして変更をキャンセルすることもできます。



露出コントロール

露出コントロールをオフにする

撮影画面で四角い枠をタップすると、露出コントロールがオフになり、カメラが全画面自動露出にリセットされます。



*注意：*露出コントロール中にEV値を調整した場合でも、露出コントロールをオフにすると、EV値が初期設定に戻ります。詳細については、「*露出値の補正 (EV値) (140ページ)*」をご参照ください。

音声コントロールの使用

音声コントロールを使用すると、GoProをハンズフリーで簡単に操作できます。ハンドルバーやスキーのストックなどで手がふさがっているときに便利です。実行したい操作をGoProに話しかけましょう。

音声コントロールのオン / オフの切り替え

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. をタップして音声コントロールをオンまたはオフにします。

音声コマンド リスト

音声コマンドには次の2種類があります。アクションコマンドおよびモードコマンドです。

アクションコマンドの使用

これらのコマンドを使用すると、ショットの撮影やモードの切り替えを即座に行うことができます。「GoPro、撮影」と言うだけで、カメラに設定済みのモードで録画が開始されるか、モードが切り替わります。たとえば、ビデオを録画した直後でも、「GoPro、写真」と言えば、手動によるモードの切り替えなしで写真を撮影することができます。

アクションコマンド	説明
GoPro、撮影	カメラに設定されているモードで撮影を開始します。
GoPro、撮影ストップ	ビデオモードおよびタイムラプスモードでの撮影を停止します。写真モードおよび連写モードは自動的に停止します。
GoPro、ビデオストップ	ビデオ撮影を停止します。
GoPro、写真	写真を1枚撮影します。

音声コントロールの使用

アクションコマンド	説明
GoPro、バースト	連写で写真を撮影します。
GoPro、タイムラプススタート	最後に使用したタイムラプスモードで撮影を開始します。
GoPro、タイムラプスストップ	タイムラプスの撮影を停止します。
GoPro、電源オフ	カメラの電源をオフにします。

モードコマンドの使用

モードコマンドで、いつでも撮影モードを切り替えることができます。切り替えたら、「GoPro、撮影」と言うか、シャッターボタン ◯ を押して撮影します。

モードコマンド	説明
GoPro、ビデオモード	カメラをビデオモードに切り替えます (録画は**始まりません**)。
GoPro、写真モード	カメラを写真モードに切り替えます (撮影は**始まりません**)。
GoPro、タイムラプスモード	カメラをタイムラプスフォトモードに切り替えます (タイムラプスフォト撮影は**始まりません**)。

GOPROテク：ビデオまたはタイムラプスを録画している場合は、新しいコマンドを試す前に、シャッターボタン ◯ を押すか、「GoPro、撮影ストップ」と言って録画を停止する必要があります。

音声コントロールの使用

カメラのコマンド一覧を参照する

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「音声コントロール」>「コマンド」の順にタップします。

音声コントロールの言語を変更する

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「音声コントロール」>「言語」の順にタップします。

*注意：*音声コントロールは、風、ノイズ、カメラとの距離によって影響を受ける場合があります。快適に使えるよう、カメラをきれいに保ち、ごみを拭き取ってください。

GoProを他のデバイスとペアリングする

BLUETOOTH接続

お使いのモデルでは、ショットの撮影や録画の改善に役立つ幅広いBluetoothデバイスとペアリングできます。ペアリングできるのは、GoPro Quikアプリ、GoProリモートコントローラー、外付けワイヤレスマイク、離れた位置からでもGoProに音声コマンドを伝えられるワイヤレスイヤホンなどです。

*注意：*外部マイクを使用している場合、常にオーディオメーターが画面に表示されます。

BLUETOOTHデバイスのペアリング

デバイスがペアリングモードになっていることを確認したうえで、GoProで次の手順を実行します。

1. リアスクリーンを下にスワイプしてダッシュボードにアクセスし、左にスワイプしてデバイスを追加します。
2. ＋「デバイスのペアリング」をタップします。対応するデバイスの検索が自動的に開始されます。

   *注意：*その時点で接続中のデバイスもすべて、このタイルに表示されます。タイルをタップしてペアリング済みデバイスを表示するか、または新しいデバイスを追加します。
3. 接続可能なデバイスが一覧表示されます。ペアリングしたいデバイスをタップします。

初回のペアリング後は、GoProと対象のデバイスの両方でBluetoothがオンになっていれば、両者は自動的にワイヤレス接続されます。

*注意：*デバイスをペアリングするには、GoProのワイヤレス接続が有効になっている必要があります。必要な場合は、以下の手順で有効にします。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「ワイヤレス接続」>「接続」の順にタップします。

タイムコードの同期

タイムコードの同期は、GoPro　Quikアプリで行います。データと時刻を複数のHERO13 Blackカメラで同期し、編集をより簡単かつ正確に行えるようにします。

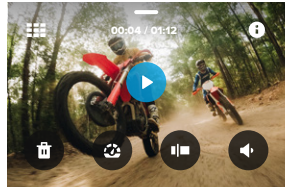
1. お使いのHERO13 BlackをGoPro Quikアプリに追加します。
2. アプリのHERO13 Blackコントロール画面で ⋮ をタップします。
3. 「タイムコードを同期」をタップすると、QRコードが表示されます。
4. QRコードをHERO13 Blackでスキャンします。モードやプリセットは任意のもので構いません。

同期が成功するとGoProに通知が表示されます。

*注意：*いったんHERO13 Blackをアプリに追加したら、アプリのHERO13 Blackコントロール画面からいつでもタイムコードの同期にアクセスできます。カメラを接続する必要はありません。

メディアの再生

上にスワイプすると、最後に撮影したビデオ、写真、連写のいずれかが表示されます。左または右にスワイプすると、SDカードの他のすべてのファイルが表示できます。



メディアギャラリーには、次の再生オプションが含まれています。

- 再生を一時停止する
- 再生を再開する
- SDカードのすべてのメディアを表示する
- 撮影に使用されたすべてのモードと設定を表示する
- SDカードからファイルを削除する
- スローモーション / 通常速度で再生する

メディアの再生

スライダーを使用してビデオ、連写、タイムラプス写真を閲覧する

HiLightタグを追加 / 削除する

再生音量を調整する

連写または連続写真のグループで前後の写真に移動する

*注意：*再生オプションは、表示しているメディアのタイプによって異なります。

GOPROテク：一部の再生オプションは、カメラを縦向きに持っている場合は使用できません。カメラを回転する前に、横向きでこれらの設定を調整します。

メディアの再生



ギャラリービューの使用

ギャラリービューを使用すると、SDカードに保存されているすべてのビデオと写真にすばやくアクセスできます。

1. 再生画面で をタップします。
2. 上にスワイプしてメディアをスクロールします。
3. フルスクリーンビューで表示するにはビデオや写真をタップします。
4. をタップしてファイルを選択します。
5. 再生画面に戻るには、をタップします。

*注意：*ギャラリービューは、カメラを縦向きに持っている場合は使用できません。また、SDカードに保存されているコンテンツの数が多いほど読み込みに時間がかかります。

メディアの再生

複数のファイルの削除

1. ☑ をタップします。
2. 削除するすべてのファイルをタップします。ファイルを選択解除するには、ファイルをもう一度タップします。
3. 選択したファイルを削除するには、🗑 をタップします。

モバイルデバイスでビデオ + 写真を見る

1. カメラをGoPro Quikアプリに接続します。詳細については、「*GoPro Quikアプリへの接続 (75ページ〜)*」をご参照ください。
2. アプリケーションのコントロールを使用して、ビデオと写真を再生、編集、共有します。

コンピューターでのビデオと写真の表示

コンピューターでメディアを表示するには、最初にファイルをコンピューターに保存する必要があります。詳細については、「*メディアの保存 (77ページ〜)*」をご参照ください。

GOPROテク：GoPro Quikアプリを使用して、ビデオから静止写真を取り込んだり、長時間のコンテンツから短いビデオを作成したり、スマートフォンにメディアを保存したりできます。

GoPro Quikアプリへの接続

モバイル用GOPRO QUIKアプリ

モバイル用GoPro Quikアプリを使用すると、スマートフォンやタブレットで直接GoProを管理できるだけでなく、コンテンツの表示、編集、共有も可能になります。

1. AppleのApp StoreまたはGoogle PlayからGoPro Quikアプリをダウンロードします。
2. GoProのスクリーンを下にスワイプしてダッシュボードにアクセスしたら、左にスワイプし、「デバイスのペアリング」をタップします。
3. スマートフォンのWi-FiとBluetoothがオンになっていることを確認します。GoPro Quikアプリを起動し、画面上に表示される指示に従ってカメラをペアリングします。

初回の接続の後、GoProとアプリのどちらもオンになっており、両方のワイヤレス接続がオンになっていると、同期が始まります。

接続速度の設定

他のモバイル機器と接続する場合、GoProは5GHzのWi-Fi帯域 (最高速) を使用するように設定されています。

デバイスまたは地域が5GHzをサポートしていない場合は、Wi-Fi帯域を2.4GHzに変更します。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「ワイヤレス接続」>「Wi-Fi帯域」の順にタップします。

ハイライトビデオの自動生成

注：ハイライトビデオの自動作成や自動アップロードなどのクラウドベースの機能は、中国ではご利用いただけません。

見事なハイライトビデオがスマートフォンに届きます
撮影したコンテンツから自動的にハイライトビデオが作成され、あなたのスマートフォンに送られます。必要なのは、GoPro PremiumまたはPremium+サブスクリプションに登録し、カメラをWi-Fiネットワークに接続することだけです。

1. **gopro.com/subscription**でGoProサブスクリプションに登録します。
2. GoProからクラウドにコンテンツが自動でアップロードされるようセットアップします。詳細については、「*クラウドへの自動アップロード (77ページ)*」をご参照ください。
3. アプリ画面の指示に従ってセットアップを完了します。

*注意：*新しいハイライトビデオの準備が完了したら案内を受け取れるよう、通知を許可してください。

セットアップ後は、自宅のWi-Fiネットワークに接続されているGoProを電源につないで充電するだけで、コンテンツがクラウドに自動アップロードされます。その後、音楽のビートとシンクロし、エフェクトが追加されたハイライトビデオが自動作成されます。ビデオが完成して再生やシェアが可能になると、そのことを知らせる通知がスマートフォンに届きます。

ベストショットの特定ベストショットには忘れずにHiLightタグをつけましょう。GoPro Quikアプリがビデオを作成するときにタグを自動で検索するため、タグがあればお気に入りの場面をストーリーに含めることができます。

また、カメラに顔を向けたり、笑ったりした瞬間も自動で検知されてタグ付けされるため、ビデオに適したショットをアプリが選び出せるようになっています。

メディアの保存

クラウドへの自動アップロード
GoPro PremiumまたはPremium+サブスクリプションを使用すると、メディアをクラウドに自動的にアップロードし、任意のデバイスで表示、編集、共有できます。

1. **gopro.com/subscribe**またはGoPro Quikアプリで、GoProサブスクリプションに登録します。
2. カメラをGoPro Quikアプリに接続します。詳細については、「*GoPro Quikアプリへの接続 (75ページへ)*」をご参照ください。
3. カメラ選択画面で、 をタップします。
4. カメラを電源に接続します。アップロードが自動的に開始されます。

一旦設定すると、自動アップロードを開始するためにカメラをアプリに接続する必要はありません。

手動クラウドアップロードに切り替える
メディアは、好きなときに手動でクラウドへアップロードすることもできます。(GoProを電源コンセントに接続し、自動アップロードをオフにする必要があります)。

1. カメラを電源に接続します。
2. 下にスワイプしてダッシュボードにアクセスします。
3. 右にスワイプして「クラウドアップロード」をタップします。

メディアの保存

クラウドメディアへのアクセス

1. デバイスでGoPro Quikアプリを開きます。
2. をタップし、「クラウド」を選択して、コンテンツの表示、編集、共有を行います。

GOPROテク：クラウドメディアを使用することで、メディアをスマートフォンにダウンロードしなくても、GoPro Quikアプリでビデオ作品を作成できます。

自動アップロードのオフ

カメラが電源コンセントに接続され、フル充電されてもアップロードを行わないように設定することができます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「クラウドアップロード」>「自動アップロード」の順にタップします。
3. 「オフ」をタップします。

別のワイヤレスネットワークへの接続

1. カメラをGoPro Quikアプリに接続します。詳細については、「*GoPro Quikアプリへの接続 (75ページ〜)*」をご参照ください。
2. 接続したら、アプリの「自動アップロードの管理」をタップします。
3. アプリで「Wi-Fiネットワーク」をタップします。
4. Wi-Fiネットワークを選択します。
5. Wi-Fiのパスワードを入力します。
6. 「接続」をタップします。

メディアの保存

スマートフォンにワイヤレスで保存する

写真やビデオをGoPro Quikアプリにワイヤレスで保存することで、スマートフォンでのアクセスや共有が簡単にできます。

1. カメラをGoPro Quikアプリに接続します。詳細については、「*GoPro Quikアプリへの接続 (75ページ〜)*」をご参照ください。
2. 「ダウンロード」をタップして、新しいコンテンツをアプリにダウンロードします。
3. 「メディアの表示」をタップすると、すべてのメディアがギャラリービューで表示されます。タップして個々のファイルを選択するか、を使用してファイルを複数選択します。「ダウンロード」をタップして、選択したファイルをアプリに保存します。

スマートフォンに有線接続で保存する

有線接続を使用すると、GoProからスマートフォンに写真やビデオをより確実に高速で転送できます。

1. 適切なケーブル / アダプター (別売) を使用して、GoProをスマートフォンに接続します。
2. スマートフォンでGoPro Quikアプリを起動し、画面の指示に従います。

スマートフォン	必要なケーブルまたはアダプター
Android	標準的なUSB-C ー USB-C
USB-Cポート搭載のiOSデバイス	標準的なUSB-C ー USB-C
Lightningポート搭載のiOSデバイス	標準的なUSB-A ー USB-CおよびApple Lightning ー USBカメラアダプター

メディアの保存

コンピューターに保存する

コンピューターにSDカードを挿してメディアをコピーすれば、コンピューターで再生や編集ができます。

1. カメラからSDカードを取り外します。
2. カードをSDカードリーダーまたはアダプターに挿入します。
3. カードリーダーをコンピューターのUSBポートに接続するか、アダプターをSDカードスロットに挿入します。
4. GoPro Quikアプリにファイルをコピーします。

GOPROテク：低解像度ビデオ（LRV）ファイルとサムネイル（THM）ファイルは、ビューには表示されません。これらのファイルにはMacまたはWindows上でアクセスできます。

Mac：ビデオファイルが含まれるフォルダーを開き、Command + Shift + .(ドット) を押します。

Windows：Windowsファイルエクスプローラーで 「表示」>「表示」>「隠しファイル」の順に選択します。

メディアの消去

オートクリア (メディアの自動消去)

メディアがクラウドに安全にアップロードされた後にカメラのSDカードからメディアすべてが自動的に削除されるよう、カメラを設定することができます。これにより、次回の使用に向けてSDカードの保存容量を最大限に確保できます。

カメラを電源に接続すると、自動アップロード機能によってSDカード内の新しい写真やビデオが認識されます。新しいファイルのみがクラウドに保存され、SDカードから削除されます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「クラウドアップロードのセットアップ」>「オートクリア」の順にタップします。

SDカードの管理 (メディアの手動消去)

SDカード内のメディアを手動で消去する際は、複数のオプションを使用できます。選べるオプションは、メディアがクラウドにアップロード済みかどうかによって決まります。

- GoProクラウドに保存されたメディアのみを消去し、アップロードされていないメディアはそのまま残す。
- GoProクラウドに保存されているかどうかを問わず、SDカード内のメディアをすべて消去する。
- SDカード内のメディア以外のデータを消去する。

SDカード内のメディアを完全消去しようとするたびに、確認のメッセージが表示されます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「SDカードを管理」をタップします。

メディアの消去

個々のファイルの削除

メディアギャラリーで、個々のファイルまたは選択したファイルを削除できます。詳細については、「*メディアの再生 (71ページ〜)*」をご参照ください。

GOPRO QUIKアプリでのギャラリービュー

GoPro Quikアプリでは、SDカード上のメディアのギャラリービューが表示されます。ギャラリービューでは、削除するファイルを簡単にタップして選択できます。

1. GoPro Quikアプリを開き、をタップしてGoProにアクセスします。
2. 「メディアの表示」をタップして、SDカード上の写真やビデオを表示します。
3. をタップし、削除する写真やビデオのサムネイルをタップします。
4. 選択したファイルを削除するには、 をタップします。

GOPROテク：アプリ下部のナビゲーションバーにある をタップして、アプリ、クラウド、スマートフォンに保存されているすべてのメディアのギャラリービューにアクセスすることもできます。

SDカードの再フォーマット

再フォーマットは、SDカード上のメディアをすべて消去する最速の方法です。フォーマットするとメディアがすべて消去されます。再フォーマット前に必ず保存してください。

1. スクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「リセット」>「SDカードをフォーマット」の順にタップします。
3. 「フォーマット」をタップすると、ファイルがすべて削除され、カードが再フォーマットされます。

GOPROテク：SDカードを定期的に再フォーマットすれば、カードを良好な状態に保つことができます。

ユーザー設定

ダッシュボードの使用

カメラを横向きにして、リアスクリーンを下にスワイプすると、ダッシュボードにアクセスできます。



ダッシュボードの機能

ダッシュボードでは、次の設定をタップして、オンとオフを簡単に切り替えることができます。

- ボイスコントロール
- カメラの電子音
- スクリーンセーバー
- 画面ロック
- フロントスクリーン設定
- 方向ロック
- レンズモッドモード
- LED

SDカードのステータス
カメラを横向きにして、リアスクリーンを下にスワイプしてダッシュボードにアクセスし、続けて右にスワイプすると、SDカードのステータスにアクセスできます。この画面で、SDカードのストレージの管理や、GoProサブスクリプションによるクラウドアップロードのセットアップを行うことができます。



SDカードのストレージ
左側のタイルにSDカードの容量が表示されます。

- 青いバーは、SDカード内のメディアのうち、GoProクラウドにアップロード済みの割合を表します。
- 白いバーは、SDカード内のメディアのうち、GoProクラウドにアップロードされていない割合です。
- グレーのバーは、SDカード内にある、GoProが使用および認識していないその他のデータを表します (このデータはGoProクラウドにはバックアップされません)。

SDカードの管理
をタップすると、SDカード上のファイルを手動で削除するためのオプションが表示されます。詳細については、「*SDカードの管理 (メディアの手動消去) (81ページ)*」をご参照ください。

クラウドアップロードのセットアップ
GoProサブスクリプションに登録済みの場合は、をタップすると、クラウドにメディアをバックアップできます。カメラのアップロードおよび接続ステータスに基づき、3つのオプションを利用できます。

- 自動アップロードのセットアップ：クラウドアップロードがセットアップされていません。タップしてメディアのクラウドアップロードのセットアップを行います。
- アップロード開始：SDカード内に、アップロードされていないメディアがあります。タップしてメディアの手動アップロードを開始します。
- クラウドアップロード (グレー表示)：アップロード対象のメディアが存在しないか、またはカメラがネットワークに接続されていません。

クラウドへのアップロードの詳細については、*クラウドへの自動アップロード (77ページ)*を参照してください。

ユーザー設定

デバイス、コントロール、ユーザー設定
カメラを横向きにして、リアスクリーンを下にスワイプしてダッシュボードにアクセスし、続けて左にスワイプすると、デバイスの追加、コントロールの変更、ユーザー設定への移動を行うことができます。



デバイスのペアリング
タップして新しいデバイスをGoProとペアリングします。詳細については、「*Bluetooth接続 (69ページ)*」をご参照ください。

操作性
タップすると、イージーコントロールとプロコントロールが切り替わります。

ユーザー設定
タップしてGoProを好みの設定にします。

ユーザー設定

クラウドアップロードのセットアップ
自動アップロード
GoProサブスクリプションに登録している場合、クラウドへの自動アップロードをセットアップして有効にすることができます。

アップロードの開始
クラウドへのメディアのアップロードを手動ですぐに開始できます。

オートクリア
クラウドへのアップロードの完了後、SDカード内のメディアすべてを自動的に消去します。

接続
接続
カメラのワイヤレス接続のオンとオフを切り替えます。

ワイヤレス情報
カメラの名前とパスワードを表示します。

Wi-Fi帯域
接続速度として5GHzまたは2.4GHzを選択します。スマートフォンおよび地域が対応している場合のみ、5GHzを設定します。

詳細については、「*接続速度の設定 (75ページ)*」をご参照ください。

接続のリセット
デバイスへのすべての接続をクリアし、カメラのパスワードをリセットします。リセットしたら、各デバイスを再接続する必要があります。

ユーザー設定

一般的な機能

QuikCapture
QuikCaptureは、初期設定でオンになっています。ここでオフにできます。

初期設定プリセット
モードボタン [MODE] を使って電源を入れた際に読み込まれるプリセットを設定します。この設定は、QuikCaptureには影響しません。

電源の自動オフ
5分 (初期設定)、15分、30分、「なし」を選択します。

LED
点滅させるステータスライトを設定します。「すべてオン」(初期設定)、「すべてオフ」、「フロントのみオフ」から選択できます。

GPS

GPSをオンにすると、映像に位置、速度、高度などの情報をタグ付けできます。これらの情報は、オプションのデータオーバーレイとして映像に追加できます。

ボイスコントロール

言語
音声コントロールの言語を選択します。

コマンド
音声コマンドの一覧が表示されます。

詳細については、「*音声コントロールの使用 (66ページ)*」をご参照ください。

ユーザー設定

オーディオ

カメラの音量
カメラのサウンドとアラートの音量を設定します。

外部マイク
GoProで使用している有線マイクのタイプを選択します。選択するオプションが不明な場合は、マイクに付属している情報を確認してください。

オプション	説明
標準マイク (初期設定)	無電源マイクを使用できます。
標準マイク+	無電源マイクを使用でき、20dBのブーストが可能です。
動力マイク	電源内蔵マイクを使用できます。
動力マイク+	電源内蔵マイクを使用でき、20dBのブーストが可能です。
ラインイン	他のオーディオ機器 (ミキシングボード、ギタープリアンプ、カラオケ機器など) からのラインレベル出力を使用できます。

*注意:*外部マイクを使用している場合、常にオーディオメーターが画面に表示されます。

ユーザー設定

ディスプレイ

スクリーンセーバー
スクリーンセーバーを1分、2分 (初期設定)、3分、5分のいずれかに設定します。「なし」を選択すると、画面がオンのままになります。

注意：カメラのボタンと音声コントロールは、画面がオフになっていても作動します。

明るさ
スライダーを使用して、スクリーンの明るさを調整します。

グリッド
リアタッチスクリーンのグリッドを使用して、ショットをフレーミングできます。

地域

言語
カメラで使用する言語を選択します。

地域フォーマット
テレビで録画と再生をする際の地域のフレームレートを選択します。お住まいの地域に合ったフォーマットにすることで、TVやHDTVでのフリッカーを抑えやすくなります。60Hz (NTSC) 地域には、北米、日本、台湾、フィリピン、南米の一部が含まれます。50Hz (PAL) 地域には、欧州およびアフリカの大部分、中国、オーストラリア、インドが含まれます。該当する地域を確認のうえ、使用する設定を確かめてください。

ユーザー設定

日付 / 時刻

日付形式
セットアップ時に選択した言語に基づいて自動的に設定されます。手動で変更することもできます。

日付
日付を手動で調整できます。カメラをGoPro Quikアプリに接続すると、日付が自動的に更新されます。

時刻
時刻を手動で調整できます。カメラをGoPro Quikアプリに接続すると、時刻が自動的に更新されます。

タイムゾーン
カメラのタイムゾーンを設定します。

夏時間
現在夏時間を実施している地域に在住している場合は、夏時間をオンにします。カメラの時計が1時間進みます。夏時間が終了したら、夏時間をオフにして標準時に戻します。

バージョン情報

GoProの更新
カメラのソフトウェアを更新すると、最新の機能を利用できるようになり、パフォーマンスが向上します。

カメラ情報
カメラの名前、シリアル番号、およびカメラが使用しているソフトウェアバージョンを確認できます。

ユーザー設定

バッテリー情報
ここでバッテリーの状態を確認できます。必ずHERO13 Black用のGoPro Enduroバッテリーを使用してください。古いGoProバッテリーやGoPro以外のバッテリーを使用すると、カメラのパフォーマンスが大幅に制限される可能性があります。

規制
GoProの認定情報を表示します。

リセット
SDカードをフォーマット
SDカードをフォーマットします。フォーマットするとメディアがすべて消去されます。再フォーマット前に必ず保存してください。

プリセットのリセット
あらかじめ組み込まれているプリセットをオリジナルの設定にリセットし、すべてのカスタムプリセットを削除します。

カメラヒントのリセット
カメラのヒントを最初からすべて確認できます。

出荷時リセット
カメラの設定をすべて復元し、すべての接続をクリアします。

重要なメッセージ

問題が発生することはまれですが、異常があればメッセージで通知されます。表示されるメッセージの一部を次に示します。

カメラの温度が高すぎます
カメラの温度が高くなり、冷却が必要になると、タッチススクリーンに温度警告アイコンが表示されます。カメラは動作温度範囲から外れそうな状況を自動で認識し、必要に応じてシャットダウンします。この場合は、カメラをそのまま放置し、温度が下がってから使用してください。

*注意：*HERO13 Blackが対応する環境温度は、動作時が-10°C～40°C、充電時が0°C～35°Cです。高温になると、カメラの電力消費量が増えて、バッテリーの消耗が速くなります。

GOPROテク：特に気温が高い環境では、高解像度や高フレームレートでビデオを撮影すると、カメラの温度が上がりやすくなります。そのような場合は、解像度とフレームレートを下げて、GoProが過熱するリスクを低減しましょう。

SDカードエラー
GoProはSDカードのさまざまな問題を検出できます。問題の原因としては、静電気放電などが考えられます。このような場合は、カメラを再起動してください。破損したファイルは自動的に修復され、カメラは完全に機能できる状態に戻ります。

重要なメッセージ



ファイルの復旧

GoProは、破損したファイルを自動的に修復しようとします。録画中にカメラの電源が切れた場合、またはファイルの保存中に問題が発生した場合に、ファイルが破損することがあります。復元中は、ファイル復元アイコンがタッチスクリーンに表示されます。処理が終了してファイルが復元されると、カメラが通知します。

メモリカードがいっぱいです

SDカードの空き容量がなくなった場合は、カメラが通知します。録画を継続するには、一部のファイルを移動または削除する必要があります。

SDカードの規格

カメラの性能を最大限に引き出すには、A2　V30、UHS-3以上のSDカードが必要です。カードの規格が低すぎる場合、またはカードが時間の経過とともに劣化し、規格に準拠した機能を発揮できない場合、カメラから通知を受け取ります。

バッテリー残量低、電源をオフにします

バッテリーの残量が10%を下回ると、タッチスクリーンにバッテリー残量の低下を示すメッセージが表示されます。ビデオの録画中にバッテリーが切れた場合は、録画が停止しビデオが保存されてから、電源がオフになります。

カメラのリセット

GOPROの再起動

カメラが応答していない場合は、モードボタン [MODE] を10秒間長押しします。これでカメラが再起動します。設定は変更されません。

プリセットを初期設定に戻す

カメラの元のプリセット設定をすべて初期設定にリセットします。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「リセット」>「プリセットのリセット」の順にタップします。

*注意：*カメラの元のプリセット設定を初期設定に戻すと、カスタムプリセットが消去されます。

接続のリセット

デバイスの接続をクリアし、カメラのパスワードをリセットします。接続をリセットすると、お使いのすべてのデバイスで再接続が必要になります。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「ワイヤレス接続」>「接続をリセット」の順にタップします。

カメラのヒントのリセット

カメラのヒントを再確認したい場合は、次の方法で最初からすべて表示することができます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして、「ユーザー設定」>「リセット」>「カメラヒントのリセット」の順にタップします。

カメラのリセット

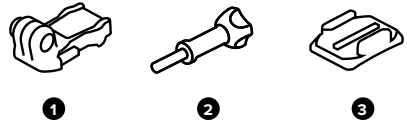
出荷時設定に戻す

カメラの元の設定をすべて復元し、すべてのデバイス接続をクリアして、GoProサブスクリプションからカメラの登録を解除します。これは、人にカメラを譲る場合や、オリジナルの状態に完全に戻したい場合に便利です。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「リセット」>「出荷時リセット」の順にタップします。

*注意：*出荷時の設定を復元しても、SDカードからコンテンツが削除されたり、カメラのソフトウェアに影響を与えたりすることはありません。

GoProのマウント方法



マウンティングハードウエア

1. マウント用バックル
2. サムスクリュー
3. 粘着性ベースマウント (曲面)

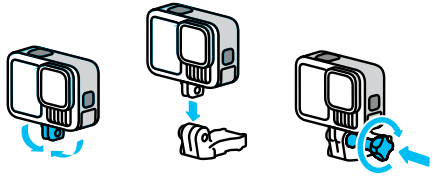
GoProのマウント方法

マウントフィンガーの使用

使用するマウントに応じて、マウントフィンガーをマウント用バックルに取り付けるか、マウントに直接取り付けます。

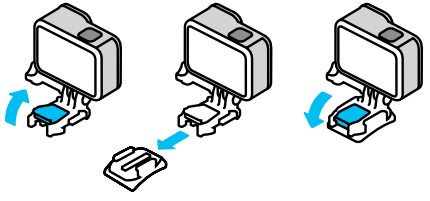
粘着性ベースマウントの使い方に関するヒントについては、「*粘着性ベースマウントの使用 (100ページ)*」をご参照ください。

1. 折り畳み式フィンガーをマウント位置に押し下げます。
2. カメラのフォールディングフィンガーを、バックルのマウントフィンガーとかみ合わせます。
3. サムスクリューを使用して、カメラをマウント用バックルに固定します。



GoProのマウント方法

4. マウント用バックルをマウントに取り付けます。
   a. マウント用バックルプラグをはね上げます。
   b. カチッと音がして固定されるまでバックルをマウント側にスライドさせます。
   c. プラグを押し込んでバックルと同じ高さになるようにします。



GOPROテク：振動が大きい環境や激しく揺れる場面では、マウントフィンガーを使用すると、カメラをGoProマウントにしっかりと固定できます。

1/4-20マウント

GoProには、マウントフィンガーだけでなく、1/4-20マウント用ねじも付属しています。これにより、ほとんどの標準カメラマウントやアクセサリーに対応できます。

警告：過酷な環境で1/4-20マウントにGoProを取り付けると、緩んだり外れたりする恐れがあります。過酷な環境では、安定性の高いマウントフィンガーを使用してください。

GoProのマウント方法

マグネット式ラッチマウント

マグネット式ラッチマウントとマグネット式ラッチボールジョイントマウント（どちらも別売）を使用すると、GoProを簡単にマウントできます。ハンドヘルドグリップやボディマウントなどのギアに取り付けるだけで使用できます。強力なマグネットでカメラが正しい位置にセットされるため、カメラをカチッとはめ込むだけです。取り外しも自動ロックのラッチをつまむだけ。お気に入りのマウントへの交換がこれまで以上に簡単になります。

粘着性ベースマウントの使用

ヘルメット、車両、およびギアに接着ベースマウントを取り付けるときには、次のガイドラインに従ってください。

- 使用する24時間以上前にマウントを取り付けます。
- マウントは必ず滑らかな面に取り付けてください。凹凸やざらざらした表面には、きちんと貼り付きません。
- マウントを押して、しっかりと取り付けます。粘着面の全体が取り付け箇所と接触していることを確認します。
- 必ず清潔で乾燥した面で使用してください。ワックスや脂分、汚れ、ほこりなどがあると、接着が弱まり、カメラが落下する可能性があります。
- 湿度が低い、室温の環境でマウントを取り付けます。低温または高湿の環境にある場合や、接着面の温度が低いまたは湿度が高い場合、しっかりと貼り付きません。
- 機器（狩猟用具など）にカメラを取り付けることが許可されているかどうか、州や現地の法令、法律を確認してください。家電やカメラの使用を規定する法律に常に準拠してください。

警告：思いがけない負傷を避けるために、カメラをヘルメットにマウントする際には流れ止めコードを使用しないでください。スキーやスノーボードに直接カメラを取り付けないでください。

GoProのマウント方法

警告：GoProヘルメットマウントまたはストラップを使用する場合は、常に該当する安全規格を満たしているヘルメットを使用してください。

実施するスポーツまたはアクティビティに適したヘルメットを選択し、ヘルメットが使用者に適したサイズでフィットしていることを必ず確認してください。ヘルメットが正常な状態であることを確認し、製造元の安全な使用に関する指示に必ず従ってください。

大きな衝撃を受けたヘルメットは交換してください。ヘルメットを装着すれば確実に怪我を防げるというわけではありません。安全を維持してください。

マウントの詳細については、**gopro.com**をご参照ください。

水中や水辺でのGoProの使用

水中でのGOPROの使用

GoProは、ドアがロックされた状態で水深10mまでの防水性を備えています。飛び込む前に、別途ハウジングを取り付ける必要はありません。

GOPROテク：水中や水辺でGoProを使用する前に、シール部分に埃やゴミが付着しておらず、ドアがしっかりと閉まっていることを確認してください。必要に応じて、ドアを閉める前にシール部分を布で拭いてください。シールに汚れ、砂、その他のゴミが付着していると、カメラに水が侵入するおそれがあります。

タッチスクリーンは、濡れていても使用できるよう設計されていますが、誤作動する場合は水を拭き取ってください。水中ではタッチスクリーンを使えませんが、ボタンを使えばメニューを操作できます。

1. カメラの電源がオンになっている状態でモードボタン [POOL] を押すと、モードを切り替えることができます。
2. モードボタンを押したまま、シャッターボタン [◯] を押します。フロントスクリーンにメニューが表示されます。
3. モードボタンを押すことで、スクロールしながらプリセットを確認できます。
4. シャッターボタンを押して、プリセットを選択します。

*注意：*ボタン操作ではダッシュボードとメディアギャラリーを使用できません。より深い水中の絶景を撮影する際は、水深60mまで耐えられる別売の保護ハウジング (HERO13 Black) を使用してください。

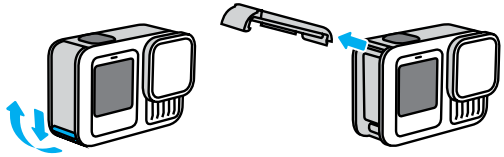
ドアの取り外し

場合によっては、カメラのドアを取り外す必要があります。

注：ドアは乾燥した、ほこりのない環境でのみ取り外します。ドアが開いていたり外れたりしていると水を防げません。

ドアの取り外し

1. ラッチのロックを解除し、続いてドアを開けます。
2. ドアを水平にした状態で、カチッと音がするまで外側にゆっくりと引きます。

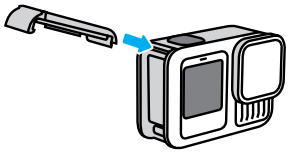


警告：ドアを外した状態でGoProを使用しないでください。使用中にバッテリーが外れてしまう可能性があります。

ドアの取り外し

ドアの取り付け

1. ドアを小さな銀色のバーに合わせます。
2. 所定の位置にはめ込まれ、しっかりと固定されるまで、ドアを小さな銀色のバーにしっかりと押し込みます。



警告：このカメラのドアは着脱式です。ドアを閉じた後、ドアがしっかりとロックされ、密閉されていることを確認してください。

メンテナンス

カメラの性能を最大限に引き出すには、次のヒントを参考にしてください。

- GoProはハウジングなしで、水深10mまでの防水性能を備えています。水や土、砂の中で使用する場合は、ドアを必ず閉じてください。
- ドアを閉じる前に、防水パッキンにチリやゴミがついていないことを確認します。必要に応じて、布で防水パッキンを拭きます。
- ドアを開ける前に、GoProが清潔で乾燥していることを確認してください。必要であれば、カメラに真水をかけてすすぎ、布で完全に水分を拭き取ります。
- ドアの周囲に砂や泥などがこびりついている場合は、カメラをぬるま湯に15分ほど浸して、その後十分にすすいで砂や泥を完全に取り除いてください。ドアを開ける前に、カメラが濡れていないことを確認してください。
- 最高のオーディオ性能を引き出すためには、カメラを振るか、マイクの挿入口に息を吹きかけて、挿入口に入った水や泥を取り除きます。マイクの挿入口から圧縮した空気を吹き込まないでください。内部の防水メンブレンを破損させる可能性があります。
- 塩水が付着した場合は、その都度必ずカメラを水ですすぎ、柔らかい布で拭いてください。
- レンズカバーは高強度の強化ガラスで作られていますが、それでも傷やひびができる場合があります。柔らかく、糸くずの出ない布で拭いてください。
- ゴミがレンズとトリムリングの間に詰まっている場合は、水や空気で取り除きます。レンズ周りに異物が入らないようにしてください。

バッテリーの情報

バッテリー駆動時間を最大化する

次のような方法で、バッテリー駆動時間を最大限に延ばすことができます。

- 低いフレームレートと解像度でビデオを録画する。
- スクリーンセーバーを使用したりスクリーンの明るさを下げる。
- フロントスクリーンをオフにする。
- ワイヤレス接続をオフにする。
- GPSをオフにする。
- QuikCaptureを使用して録画する。
- 自動電源オフの設定時間を短くする。

電源接続時の撮影

カメラに付属しているUSB-Cケーブルを使用すると、カメラをUSB式の充電アダプターや他の外部電源に接続した状態でビデオや写真を撮影できます。これは、長いビデオやタイムラプスイベントを撮影するのに最適です。

録画中は、SDカードスロットの周辺に触れないように注意してください。SDカードに触れると、録画が中断または停止される可能性があります。この問題が発生した場合は、カメラにメッセージが表示されます。このような不具合が発生しても、コンテンツが破損や消失することはありませんが、カメラの再起動が必要になる場合はあります。

カメラをプラグにつないでいても、録画中にはバッテリーは充電されません。録画を停止すると、充電が開始されます。カメラをコンピューターに接続している場合は、録画できません。

*注意：*充電中はドアが開いているため、カメラは防水ではなくなります。

バッテリーの情報

ドアを閉じた状態での充電

GoProでは、長時間に及ぶ撮影中に簡単にカメラに電力を供給することも、ドアを閉じたままバッテリーを充電することもできます。高い防水効果を得られるContactoマグネット式ドア + 電源ケーブルキット (別売) には、交換用カメラドアにマグネットで固定できるケーブルが付属しています。ケーブルのもう一方の端をUSB-C電源に接続して使用します (水に濡れる環境では、必ず防水性能を備えた電源を使用してください)。

USBパススルードア (別売) を使用すると、ドアを閉じた状態でカメラのUSB-Cポートに直接接続できます。これにより、長時間に及ぶ撮影でもあらゆる天候に対応でき、バッテリーを簡単に充電し続けることができます。

GoProテク：Contactoマグネット式ドア + 電源ケーブルキット (別売) を使用すると、バッテリーを装着したままで外部電源に接続し、防水性を維持できます。



警告：GoProの充電には、地域の規制要件 (UL、CSA、VDE、CCCなど) を満たした、関連機関による認可済みの電源のみを使用してください。規格に適合していない電源アダプターやケーブルを使用した場合、カメラのバッテリーが破損したり、火災や液漏れが生じたりするおそれがあります。

バッテリーの情報

バッテリーの保管と取り扱い

GoProには、バッテリーなどの精密部品が多く含まれています。本機を極端な低温や高温にさらさないでください。極端な温度の環境では、バッテリー駆動時間が一時的に短くなったり、カメラが一時的に誤作動したりすることがあります。温度や湿度が急激に変化する環境での使用は、製品の内外に結露が発生する可能性があるため避けてください。

カメラを乾燥させる際に、電子レンジやヘアドライヤーなどの外部熱源を使用しないでください。カメラ内部に水や液体が侵入してカメラやバッテリーが破損した場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

貨幣や鍵、ネックレスなどの金属と一緒にバッテリーを保管しないでください。バッテリーの接触子が金属に触れると発火するおそれがあります。

許可されていない改造をカメラに加えないでください。許可されていない改造を行うと、安全などの法令に違反したり、システムのパフォーマンスが低下したりするほか、保証の対象外となります。

*注意：*低温環境下では、バッテリー容量が低下します。古いバッテリーになるほどこの影響は大きくなります。定期的に低温下で撮影を行う場合は、最適なパフォーマンスを維持するため、1年に1回バッテリーを交換してください。

GOPROテク：バッテリー寿命を最大限に延ばすために、長期保管する際は事前にフル充電してください。

バッテリーの情報

警告：カメラまたはバッテリーの投下、分解、開放、破砕、折り曲げ、変形、穿刺、裁断、電子レンジによる加熱、焼却、塗装などを行わないでください。USB-Cポートなど、カメラの開口部に異物を入れないでください。亀裂や穴がある場合や、水没などが原因で破損した場合、カメラを使用しないでください。バッテリーを分解したり、穴を開けたりすると、破裂や火災の原因になることがあります。

バッテリーの廃棄

ほとんどの充電式リチウムイオンバッテリーは、無害廃棄物に分類され、自治体の通常の廃棄物として処理することができます。多くの地域では、バッテリーをリサイクルすることが義務付けられています。お住まいの地域の規制を調べ、通常のゴミと一緒に充電式バッテリーを廃棄できるかどうかご確認ください。リチウムイオンバッテリーを安全に廃棄するために、接触子が他の金属に触れないよう、梱包テープ、マスキングテープ、絶縁テープなどで適切に覆い、輸送中に発火しないようにしてください。

ただし、リチウムイオンバッテリーにはリサイクル可能な材料が含まれており、リチャージャブルバッテリーリサイクリングコーポレーション (RBRC) のバッテリーリサイクリングプログラムでもリサイクル受け入れ対象となっています。北米のお客様は、Call2Recycle (ウェブサイト：**call2recycle.org**、電話：1-800-BATTERY) に問い合わせ、最寄りのリサイクル施設を確認することをお勧めします。

バッテリーは火に投じると爆発する恐れがあるため、火のあるところには絶対に捨てないでください。

警告：GoPro交換用バッテリー、電源ケーブル、バッテリー充電用アクセサリー、デバイスは、カメラでのみ使用してください。

古いGoProバッテリーやGoPro以外のバッテリーを使用すると、カメラのパフォーマンスが大幅に制限される可能性があります。さらに保証の失効、火災、感電などの危険性もあります。

トラブルシューティング

GOPROの電源がオンにならない

GoProが充電されていることを確認してください。「*SDカードとバッテリーのセットアップ (10ページ)*」をご参照ください。バッテリーを充電しても解決しない場合は、カメラを再起動してみてください。「*GoProの再起動 (95ページ)*」をご参照ください。

ボタンを押してもGOPROが反応しない

「*GoProの再起動 (95ページ)*」をご参照ください。

コンピューターでの再生が途切れる

通常、画像の途切れはファイルの問題ではありません。映像がスキップされる場合は、原因として次のいずれかが考えられます。

- コンピューターがHEVCファイルをサポートしていない。**gopro.com/apps**で、Mac用またはWindows用GoProプレーヤー(無料)の最新バージョンをダウンロードしてください。
- お使いのコンピューターが、再生に使用しているソフトウェアの最小要件を満たしていない。

トラブルシューティング

カメラのユーザー名またはパスワードを忘れた

リアスクリーンで下にスワイプしてダッシュボードにアクセスします。左にスワイプし、「ユーザー設定」>「接続」>「カメラ情報」の順にタップします。

実行中のソフトウェアのバージョンがわからない

リアスクリーンで下にスワイプしてダッシュボードにアクセスします。左にスワイプし、「ユーザー設定」>「バージョン情報」>「カメラ情報」の順にタップします。

カメラのシリアルナンバーが見つからない

シリアル番号は、カメラのバッテリーボックス内に刻印されています。また、リアスクリーンで下にスワイプしてダッシュボードにアクセスし、さらに左にスワイプして「ユーザー設定」>「バージョン情報」>「カメラ情報」の順にタップしても確認できます。

GOPROが見つからない

GoPro Quikアプリで「カメラを見つける」をタップします。GoProがBluetoothの通信範囲内にあり、アプリに接続されている場合は、電子音が鳴ります。

よくある質問の他の回答については、**gopro.com/help**をご覧ください。

仕様：ビデオ

ビデオ品質のオプション (イージーコントロール)
ビデオモードには3つの録画オプションがあります。どのオプションでも、シャッターボタン ◯ を押すと録画が始まり、もう一度押すと停止します。

最高
GoProの最高解像度である5.3Kで撮影します。4Kよりも91%高い解像度で、プロ並みの映像を撮影できます。

*注意：*デジタルレンズとスローモーションの組み合わせ次第では、一部のコンテンツが5.3K未満の解像度で撮影される場合があります。

標準 (初期設定)
4Kビデオの解像度で、プロ並みの映像を撮影できます。高解像度ビデオの再生が難しいモバイルデバイスに最適です。

*注意：*デジタルレンズとスローモーションの組み合わせ次第では、一部のコンテンツが5.3K未満の解像度で撮影される場合があります。

基本の撮影方法
フルHD 1080pビデオを撮影します。バッテリーの駆動時間が最大化され、旧式のデバイスとの互換性も最大限に確保されます。

仕様：ビデオ

標準、HDR、HLG HDR、LOGビデオ
標準、HDR、HLG HDR、Logビデオから撮影オプションを選択します。

標準
標準のビデオ形式で映像を撮影します。

HDR
ハイダイナミックレンジ (HDR) を使用して5.3Kおよび4Kビデオを録画します。実際の色を忠実に再現した、活き活きとした映像を撮影できます。通常であれば影でつぶれてしまう部分や、明るさで白飛びしてしまう部分も、細部まで鮮明に捉えます。明るい環境での撮影に最適です。

HLG HDR
ハイブリッドログガンマ (HLG) を使用するには、Protuneを使用してオンにします。これは、メディアのプロが使用する標準のHDR形式です。10-bitおよびRec. 2100カラースペースでのビデオ撮影が可能です。

*注意：*HLG HDRで録画したビデオを再生するには、互換性のあるディスプレイとメディアプレーヤーが必要です。

Log
Logビデオでは、より精細な映像を記録できます。Logエンコーディングで撮影したビデオでは必ずGP-Logカラープロファイルが使用されるため、ポストプロダクションでの色補正が必須となります。自由度やダイナミックレンジが広いことが特徴です。ルックアップテーブル (LUT) が生成され、カラーグレーディングが行いやすくなります。

*注意：*Logビデオは、ビデオ用に10-Bitエンコーディングを選択した場合のみ使用可能です。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「ビデオ」>「ビット深度」の順にタップします。

仕様：ビデオ

フレーミング (ビデオ)
フレーミングは、画像の幅と高さを表します。アスペクト比とも呼ばれます。アスペクト比は4種類から選択できます。

16:9 (ワイドスクリーン)
HDTV、YouTube、編集プログラム用の標準的な形式です。ワイドスクリーン形式は、シネマティックで印象的なコンテンツを撮影するのに最適です。

9:16 (縦向き)
この超縦長の形式は、スマートフォンでのコンテンツ視聴やSNSへの投稿に最適です。

4:3 (従来型)
縦幅がより高い4:3形式では、16:9のワイドスクリーン形式よりも多くの情報を画面に収めることができます。自撮りや、臨場感あふれるPOV映像を撮影するのに適しています。

8:7 (フルフレーム)
非常に臨場感あふれる形式であり、横幅・縦幅ともにHEROカメラ史上最大の視野角で、より広い範囲の情報を画面に表示できます。このモードでは、GoPro Quikアプリや他の編集ソフトウェアで映像の任意の部分にズームインして、アスペクト比を問わず高解像度で抜き出すことができます。

仕様：ビデオ

ビデオの解像度 (RES)
ビデオの解像度は、画像のきめ細かさを表します。解像度が高くなるほど、画質が向上します。5.3Kビデオの解像度は、4Kよりも91%、1080pよりも665%高くなります。

ビデオの解像度	説明
5.3K 16:9	広角でアスペクト比16:9の驚異的なウルトラHDビデオを撮影できます。15.8MPの静止画をビデオから取得することができます。
5.3K 8:7	横幅・縦幅ともにHEROカメラ史上最大の視野角で撮影する超高解像度ビデオです。これにより、画質はそのままに、ワイドスクリーン (16:9) または縦型 (9:16) の画角のコンテンツを柔軟に作成することができます。また、ズームインしても映像の豊かな質感と鮮明さが維持され、24.7MPの静止画をビデオから切り出すことができます。
4K 16:9	アスペクト比16:9のウルトラHDビデオ。三脚や固定位置での撮影に最適です。8MPの静止画をビデオから取得することができます。
4K 8:7	縦と横に広いアスペクト比8:7で、ウルトラHDビデオを撮影します。臨場感あふれるPOV映像の撮影に最適で、録画後にデジタルレンズの交換、ショットのクロップ、アスペクト比の調整を行うことができます。12.9MPの静止画をビデオから取り込むことができます。

仕様：ビデオ

ビデオの解像度	説明
4K 9:16	アスペクト比16:9のウルトラHDビデオ。スマートフォンでの再生やSNSへの投稿に最適です。8MPの静止画をビデオから取得することができます。
2.7K 16:9	16:9の高解像度のビデオ。プロ仕様の制作用として迫力ある映画品質の映像を実現します。120fpsの高フレームレートにより、編集中に4倍のスローモーションが可能になります。
2.7K 4:3	ボディやギアに搭載された主観的な高解像度のショットを、滑らかなスローモーションで再生するのに最適です。
1080p 16:9	標準的なHDTV解像度。録画時間を最大限まで伸ばしたい場合や、旧式のデバイスでのビデオ再生を予定している場合に最適です。240fpsや120fpsの高フレームレートオプションにより、編集時にスーパースローモーションを利用できます。
1080p 9:16	アスペクト比9:16の縦長で標準的なHDTV解像度です。録画時間の最大化、旧式のデバイスでの再生、SNS投稿用の小さめのサイズのファイル作成に最適です。

仕様：ビデオ

フレーム/秒 (FPS)
フレーム/秒とは、ビデオで1秒あたりに撮影されるフレーム数を表します。速い動きの撮影には、高いFPS値 (60、120、240) が適しています。高fpsの映像はスローモーション再生に使用することもできます。

スローモーション + FPS
標準速度のビデオは、通常は30fpsで録画・再生されます。そのため、60fpsで撮影されたビデオは2倍のスローモーション (1/2の速度) で再生できます。さらに、120fpsで録画すれば4倍のスローモーション (1/4の速度) で、240fpsで録画すれば8倍のスローモーション (1/8の速度) で再生できます。

高fpsで録画されたビデオほど、スローモーションで見るときに動きが滑らかになり、細部までくっきりと映し出されます。

解像度 + FPS
ビデオの解像度は高いほど、より細部までくっきりとした映像を撮影できますが、利用できるfps値は一般的に低くなります。

ビデオ解像度を低くすると、映像は鮮明ではなくなりますが、高いfps値で撮影できます。

仕様：ビデオ

デジタルレンズ (ビデオ)
デジタルレンズでは、カメラが捉えるシーンの広さを選択できます。レンズの種類は、ショットのズームレベルや魚眼効果にも影響します。

デジタルレンズ	説明
HyperView (16mm)	GoProで最も縦長かつ広角の視野角です。臨場感あふれるPOV映像の撮影に最適です。 *注意：*HyperViewは8:7の映像を16:9画面に合わせて引き伸ばします。そのため、魚眼効果による臨場感が抜群の映像を撮影できます。普通の録画よりもPOVアクションスポーツ撮影に向いています。
SuperView (16mm)	縦長の視野角で、HyperViewよりも歪みの少ないPOVショットに適しています。
広角 (16～34mm)	広角で汎用性に優れた視野角で、集合写真や自撮りに適しています。

仕様：ビデオ

デジタルレンズ	説明
リニア + 水平ロック / 水平維持 (19～33mm)	HyperViewやSuperView、広角のような魚眼効果を抑えた、広い視野角のデジタルレンズ。録画中にカメラを回転させても、滑らかで水平な映像に保ちます。 詳細については、「*水平ロック / 水平維持 (123ページ～)*」をご参照ください。
リニア (19～39mm)	魚眼効果を取り除いた広角視野角。横向きのショットや風景の撮影に最適です。

*注意：*選択した解像度およびフレームレートと互換性があるレンズのみが、使用可能です。

GOPROテク：超広角レンズモッド (別売) を使用すると、超広角177°デジタルレンズで視界を広げることができます。

仕様：ビデオ

ビデオの設定

以下の表に、最高品質ビデオモードのカメラのビデオ解像度、フレームレート (fps)、デジタルレンズ、アスペクト比をまとめました。

ビデオの解像度 (RES)	FPS (60Hz/50Hz)*	デジタルレンズ	画面解像度	アスペクト比
5.3K	60/50	SuperView、広角、リニア、リニア + 水平維持	5312x2988	16:9
5.3K	30/25 24/24	HyperView、SuperView、広角、リニア、リニア + 水平ロック	5312x2988	16:9
5.3K	30/25 24/24	広角	5312x4648	8:7
4K	120/100	SuperView、広角、リニア、リニア + 水平維持	3840x2160	16:9
4K	60/50 30/25 24/24	HyperView、SuperView、広角、リニア、リニア + 水平ロック	3840x2160	16:9

**60Hz (NTSC) および50Hz (PAL) はビデオのフォーマットを意味し、お住まいの地域によって異なります。詳細については、「地域フォーマット (90ページ)」をご参照ください。*

仕様：ビデオ

ビデオの解像度 (RES)	FPS (60Hz/50Hz)*	デジタルレンズ	画面解像度	アスペクト比
4K	60/50 30/25 24/24	広角	3840x3360	8:7
4K	60/50 30/25	広角	2160x3840	9:16
2.7K	240/200	広角、リニア、リニア + 水平維持	2704x1520	16:9
2.7K	120/100	広角、リニア、リニア + 水平ロック	2704x2028	4:3
1080p	240/200	広角、リニア、リニア + 水平維持	1920x1080	16:9
1080p	120/100 60/50 30/25	SuperView、広角、リニア、リニア + 水平ロック	1920x1080	16:9
1080p	60/50 30/25	広角	1080x1920	9:16

**60Hz (NTSC) および50Hz (PAL) はビデオのフォーマットを意味し、お住まいの地域によって異なります。詳細については、「地域フォーマット (90ページ)」をご参照ください。*

仕様：ビデオ

高解像度 / 高フレームレート
屋外の気温が高い環境で高解像度または高fpsのビデオを撮影すると、カメラが高温になり消費電力が増える原因となります。

空気の流れがないところでGoPro Quikアプリに接続すると、カメラの温度がさらに上がり、より多くの電力を使用するため、録画時間が短縮されます。

過熱の問題が生じた場合は、録画するビデオを短くしてみてください。また、GoPro Quikアプリのように、多くの電力を消費する機能の利用を控えてください。The Remote (別売) は、低消費電力でGoProを制御できます。

シャットダウンして冷却する必要がある場合、カメラが通知します。

詳細については、「*重要なメッセージ (93ページ)*」をご参照ください。

仕様：ビデオ

水平ロック / 水平維持
水平がしっかりと維持されることにより、シネマティックなプロ品質のビデオを撮影することができます。解像度やフレームレートに応じて、水平ロックまたは水平維持が適用されて録画されます。

水平ロック
水平ロックは、録画中にカメラが360°回転してもロックされ、(水平軸または垂直軸上での) 安定を維持します。アスペクト比16:9および4:3での録画時に、ほとんどのフレームレートと各解像度で使用できます。

水平維持
水平維持は、録画中にカメラを傾けても、滑らかで水平な映像を維持します。各解像度 (5.3K60、4K120、2.7K240、1080p240) の最高フレームレートで、アスペクト比16:9での録画時に使用できます。

仕様：ビデオ

HYPERSMOOTHビデオブレ補正

HyperSmoothでは、カメラのブレを補正することで、驚くほど滑らかな映像を撮影することができます。録画中にビデオをクロップして映像のブレを抑えます。サイクリング、スケート、スキー、手持ち撮影などに最適です。このGoProには、次の3つのHyperSmooth設定が用意されています。

設定	説明
自動ブースト	視野角を最大に保ちながら、最も高いビデオブレ補正を使えます。クロップは、映像に求められるブレ補正のレベルに応じて変わります。
オン	高レベルのビデオブレ補正を行い、クロップを最小限に留めます。
オフ	ビデオブレ補正またはクロップを行わずに録画します。

録画開始前にタッチズームを使用してショットをクロップすることで、より一層映像を滑らかにすることができます。これにより、カメラがビデオのブレを補正する際に使える余地が広がるためです。水平ロックを使用することでブレ補正も強化されます。

GOPROテク：超広角レンズモッド (別売) を使用すると、優れたビデオブレ補正を適用し、最大4K、60フレーム/秒で撮影でき、GoProの能力を最大限まで引き出すことができます。

仕様：ビデオ

バーストスローモーション

バーストスローモーションにより、短いビデオクリップを驚異的な400フレーム/秒で撮影でき、GoProによる撮影の幅が広がります。再生時のアクション速度を通常の13倍に減速できます。GoProには、3つのバーストスローモーションオプションが用意されています。

ビデオの解像度 (RES)	FPS (60Hz/50Hz)*	デジタルレンズ	スローモーション速度	最長時間
720p	400/400	狭角	13倍	15秒
900p	360/300	リニア	12倍	15秒
5.3K	120/100	広角	4倍	5秒

**60Hz (NTSC) および50Hz (PAL) はビデオのフォーマットを意味し、お住まいの地域によって異なります。詳細については、「地域フォーマット (90ページ)」をご参照ください。*

仕様：写真

アスペクト比 (写真)

アスペクト比は、画像の幅と高さを表します。GoProはアスペクト比8:7で27MP写真を撮影します。臨場感が高く、横幅・縦幅ともにHEROカメラ史上最大の視野角です。縦方向に長くなるため、9:16の細長いショットやSNSの各プラットフォームに応じたサイズを作成できます。

GoPro Quikアプリによる写真編集

アスペクト比8:7、解像度27MPで写真が撮影されるため、思う存分クリエイティブを発揮できます。GoPro Quikアプリには、簡単に編集を行えるように設計されたさまざまなツールがあります。

- 細部の劣化なしに、写真の特定部分をクロップしたりズームインしたりできます。
- 写真の視野角はデジタルレンズ効果を切り替えて調整できます。
- 写真のアスペクト比を変更できます。

SUPERPHOTO

SuperPhotoは、シーンを自動分析し、ショットに最適な画像処理を適用します。

光量やショットの中の動きなどの条件に応じて、SuperPhotoが次の3つのオプションからいずれかを選択します。

ハイダイナミックレンジ (HDR)

改良されたHDRでは、複数の写真を1つのショットに結合し、明るい光と影が混在したシーンを細部まで再現します。

仕様：写真

マルチフレームノイズ低減

複数のショットを1枚の写真に自動的に結合して、デジタルの歪み (ノイズ) を低減します。

標準の写真

ローカルトーンマッピング機能を搭載しています。この機能では、必要な場所でのみ細部とコントラストを強調することで写真を補正します。

画像処理に時間がかかるため、各ショットを処理して保存するのに少し待つ場合があります。

*注意：*SuperPhotoは、バーストフォト、ナイトフォト、RAW写真、Protune、露出コントロールでは機能しません。

SuperPhotoをオフにする

SuperPhotoは、初期設定でオンになっています。オフにする方法は以下の通りです。

1. 写真設定画面で、「出力」をタップします。
2. 「標準」、「HDR」、または「RAW」に切り替えます。

HDR (写真)

ハイダイナミックレンジ (HDR) は、SuperPhotoが写真の質を向上させるために用いる画像処理技術の1つです。複数のショットを集約するため、かつてないほどの素晴らしい1枚が実現します。写真を撮影するときに必ずHDRを使用するには、この設定を選択します。

1. 写真設定で、「出力」をタップします。
2. 「HDR」を選択します。

最良の結果を得るには、動きの少ない高コントラストのショットでHDRを使用します。

*注意：*HDRは、バーストフォト、ナイトフォト、RAW写真、露出コントロールでは機能しません。

仕様：写真

間隔 (インターバル撮影)

間隔では、インターバル撮影の使用中にカメラが写真を撮影する頻度を設定します。間隔は0.5秒、1秒、2秒、3秒、5秒、10秒、30秒、60秒、120秒の中から選択できます。また、インターバル撮影のオフも選べます。

注意：選んだ出力形式によっては使用できない間隔もあります。その場合、選んだ出力形式でも使用できる別の間隔をカメラが提案します。

シャッター速度 (ナイトフォトとナイトラプスフォト)

シャッター速度により、ナイトフォトモードとナイトラプスフォトモードでカメラのシャッターが開いている時間の長さを指定できます。オプションと使用時のヒントは次の通りです。

速度	例
自動 (最大30秒)	日の出、日没、夜明け、夕暮れ、薄暮、夜間。
2秒、5秒、10秒、15秒	夜明け、夕暮れ、薄暮、ナイトトラフィック、観覧車、花火、ライトペインティング。
20秒	夜間の空 (光源あり)。
30秒	夜間の星、天の川 (完全な暗闇)。

GOPROテク：ナイトフォトとナイトラプスフォトの使用時にブレを防ぐには、カメラを三脚に取り付けるか安定した面に置きます。

仕様：写真

バーストレート

次の高速設定のいずれかを使用して、素早いアクションシーンを撮影します。

- 自動 (照明条件に基づいて1秒間に最大30枚)
- 6秒または10秒に60枚
- 1、3、6秒に30枚
- 1秒、3秒に10枚
- 1秒間に5枚
- 1秒間に3枚

デジタルレンズ (写真)

デジタルレンズでは、カメラが捉えるシーンの広さを選択できます。レンズは、ショットのズームレベルや魚眼効果にも影響します。写真には、次の3つのレンズオプションがあります。

デジタルレンズ	説明
広角 (16～34mm)	フレーム内にできるだけ広い範囲を収める広い視野角。
リニア (19～39mm)	広角での魚眼効果を取り除いた広い視野角。

GOPROテク：超広角レンズモッド (別売) を使用すると、超広角177°デジタルレンズで視界を広げることができます。

仕様：写真

RAW形式
この設定がオンになっている場合、写真はすべて.jpg画像　(カメラで表示する場合やGoPro Quikアプリで共有する場合) および.gprファイルで保存されます。

.gprファイルは、Adobe DNG形式に基づいています。これらのファイルは、Adobe Camera Raw (ACR)、バージョン9.7以降で使用できます。また、Adobe Photoshop Lightroom CC (2015.7リリース以降) およびAdobe Photoshop Lightroom 6 (バージョン6.7以降) も使用できます。

写真モードでは、次の条件および例外により、RAW形式を写真、連写、ナイト、タイムラプス写真およびナイトラプス写真で使用できます。

- SuperPhotoがオフになっている必要があります。
- デジタルレンズを「広角」に設定する必要があります。
- ズームをオフにする必要があります。
- RAW形式は連続写真の撮影時には使用できません。
- タイムラプスフォトでは、間隔は5秒以上にする必要があります。
- ナイトラプスフォトでは、シャッター設定は5秒以上にする必要があります。

GOPROテク：.gpr形式の写真は、.jpgファイルと同じファイル名で、同じ場所に保存されます。ファイルにアクセスするには、カードリーダーにSDカードを挿入し、コンピューターのファイルエクスプローラーでファイルを見つけます。

仕様：タイムラプス

タイムワープビデオの速度
タイムワープビデオの速度を最大30倍速にすれば、長時間のアクティビティを、シェアできるほど短いビデオにすることができます。初期設定は、速度が自動的に設定される「自動」になっています。

自分で速度を設定することも可能です。この表を使って、ビデオの長さを予測してください。たとえば、2倍速で4分間録画すると、約2分のタイムワープビデオが作成されます。

速度	録画時間	ビデオの長さ
2倍	1分	30秒
5x	1分	10秒
10x	5分	30秒
15x	5分	20秒
30x	5分	10秒

*注意：*録画時間は目安です。ビデオの長さはショット内に含まれる動きによって変動します。

速度	例
2x～5x	景色のよい道路での運転。
10x	ハイキングや探検。
15x～30x	ランニングやマウンテンバイク。

GOPROテク：最高の結果を得るため、がたがたと揺れる可能性のある映像を撮影する場合は、速度を「自動」設定のままにしてください。

仕様：タイムラプス

スピードランプ (TIMEWARP)

スピードランプはTimeWarpの速度を遅くする機能で、選んだ速度から30フレーム/秒 (実際の速度) まで減速させます。まず、タイムワープビデオの録画を開始します。録画中、リアタッチスクリーンをタップすることで現実の速度まで減速し、ドラマチックな映像に仕上げられます。もう一度タップすると、元の速さに戻ります。

映像内では、スピードランプを使用していた間だけ高速のアクションが現実の速度まで減速し、スピードランプをオフにした後の場面では速度が元に戻ります。

仕様：タイムラプス

タイムラプスの設定

以下の表に、このカメラのタイムラプスで使用できる解像度、デジタルレンズ、アスペクト比をまとめました。

タイムラプスモード	ビデオの解像度 (RES)	デジタルレンズ	アスペクト比
TimeWarp	5.3K、4K、1080P	HyperView、SuperView、広角、リニア、リニア + 水平ロック	16:9、8:7
TimeWarp	4K、1080p	HyperView、SuperView、広角、リニア、リニア + 水平ロック	9:16
スタートレイル	5.3K、4K	広角	16:9、8:7
ライトペインティング	5.3K、4K	広角	16:9、8:7
ライトトレイル	5.3K、4K	広角	16:9、8:7
タイムラプスビデオ	5.3K、4K、1080P	広角、リニア	16:9、8:7
ナイトラプスビデオ	5.3K、4K、1080P	広角、リニア	16:9、8:7

仕様：タイムラプス

タイムラプスの間隔
タイムラプスビデオまたはタイムラプスフォトモードの状態で、カメラが写真を撮影する頻度を決定します。

使用可能な間隔は、0.5 (初期設定)、1秒、2秒、5秒、10秒、30秒、および1分、2分、5分、30分、1時間です。

間隔	例
0.5秒～2秒	サーフィン、自転車、他のスポーツ。
2秒	往来の激しい街かど。
5秒～10秒	雲や屋外風景の長時間撮影。
10秒～1分	アートプロジェクトやその他の長時間を要する活動。
1分～1時間	非常に長い時間を要する建設工事またはその他の活動。

仕様：タイムラプス

タイムラプスビデオの録画時間
ビデオの長さを決める際はこちらの表をご参照ください。

間隔	録画時間	ビデオの長さ
0.5秒	5分	20秒
1秒	5分	10秒
2秒	10分	10秒
5秒	1時間	20秒
10秒	1時間	10秒
30秒	5時間	20秒
1分	5時間	10秒
2分	5時間	5秒
5分	10時間	4秒
30分	1週間	10秒
1時間	1週間	5秒

GOPROテク：カメラを三脚に取り付けるか安定した面に置き、ブレや揺れが生じないようにして撮影します。TimeWarpビデオを使用すると、移動しながらタイムラプスビデオを撮影できます。

仕様：タイムラプス

ナイトラプスの間隔

GoProがナイトラプスモードでシャッターを切る頻度を選択します。ナイトラプスの間隔は、自動、4秒、5秒、10秒、15秒、20秒、30秒、および1分、2分、5分、30分、60分です。

「自動」(初期設定) を選択すると、シャッター設定の間隔と同期されます。シャッター速度が10秒に設定されていて、間隔が「自動」の場合、カメラは10秒ごとにシャッターを切ります。

間隔	例
自動	すべての露出に最適 (シャッターの設定に従いながら最速でシャッターを切ります)。
4秒～5秒	夕刻の街の風景、街の照明、動きのある場面。
10秒～15秒	明るい月夜の雲の動きなど、ゆったりとシーンが移り変わる薄暗い環境での撮影。
20秒～30秒	最小限の環境光量や街灯の下で見上げる星空のように、極めて低光量または極めて動きの少ないシーンの撮影。

仕様：Protune

Protuneにより、色、ホワイトバランス、シャッター速度などの詳細設定を手動で制御することで、カメラが秘めるクリエイティブの可能性を余すところなく引き出すことができます。プロ仕様の色補正ツール、その他の編集用ソフトウェアと互換性があります。

いくつかのポイントをご紹介します。

- 設定メニュー内で下にスクロールすると、Protuneのすべての設定が表示されます。
- 露出コントロールを使用する場合、一部のProtuneの設定は使用できません。
- プリセット内のProtune設定で行った変更は、そのプリセットにのみ適用されます。たとえば、タイムラプスのホワイトバランスを変更しても、連写のホワイトバランスに影響を与えることはありません。

GOPROテク：設定メニューの ↺ をタップすれば、すべてのProtune設定をリセットできます。

HLG HDR

これは、メディアのプロが使用する標準のHDR形式です。10-bitおよびRec. 2100カラースペースでの5.3Kおよび4Kのビデオ撮影が可能です。ハイブリッドログガンマ (HLG) を使用するには、Protuneを使用してオンにします。HLG HDRを選択すると、ビット深度が自動的に10-bitに設定されます。ビット深度が8-bitの標準プロファイルによる撮影に切り替えるまで、10-bitのままになります。

*注意：*HLG　HDRで録画したビデオを再生するには、互換性のあるディスプレイとメディアプレーヤーが必要です。

仕様：Protune

ビット深度

8-bitビデオ撮影または10-bitビデオ撮影を選択します。10億色超の表示に対応する10-bitカラーは、高い色深度と滑らかなグラデーションが特徴で、よりリアルな映像を捉えます。8-bitではファイルサイズを小さくできます。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「ビデオ」>「ビット深度」の順にタップします。

ビット深度	説明
8-Bit (初期設定)	すべてのビデオで8-bit HEVCエンコーディングを使用します。
10-Bit	4K以上のすべてのビデオで10-bit HEVCエンコーディングを使用し、ポストプロダクションで高い柔軟性や色深度を利用できます。4K未満のビデオではすべて8-bitエンコーディングが使用されます。また、GP-Logカラープロファイルによるログプロファイルが有効になります。

*注意：*この設定を使用する前に、お使いのデバイスが10ビットHEVCコンテンツの再生に対応しているか確認してください。10-bitエンコーディングは、アスペクト比9:16のコンテンツでは使用できません。

仕様：Protune

ビットレート

ビットレートにより、ビデオを1秒間録画するのに使用されるデータ量が決まります。「標準」と「高」から選択してください。

1. リアスクリーンを下にスワイプして、ダッシュボードにアクセスします。
2. 左にスワイプして「ユーザー設定」>「ビデオ」>「ビットレート」の順にタップします。

ビットレート	説明
標準 (初期設定)	ファイルサイズを最小化するには、低いビットレートを使用します。
高	最大120Mbps (5.3Kおよび4Kビデオ) の高ビットレートを使用し、最も高い画質で撮影します。

シャッター

Protuneのシャッター設定は、ビデオモードと写真モードにのみ適用されます。この設定によりシャッターが開いている時間が決まります。オプションをスクロールしてそれぞれの設定のライブプレビューを確認してから、必要なオプションをタップします。初期設定は「自動」です。

写真の場合、自動、1/125秒、1/250秒、1/500秒、1/1000秒、1/2000秒の各オプションがあります。

ビデオの場合、オプションは次に説明されているように、fpsの設定によって異なります。

シャッター	例1： 1080p30	例2： 1080p60
自動	自動	自動
1/fps	1/30秒	1/60秒
1/(2xfps)	1/60秒	1/120秒
1/(4xfps)	1/120秒	1/240秒
1/(8xfps)	1/240秒	1/480秒
1/(16xfps)	1/480秒	1/960秒

GOPROテク：ビデオや写真の手ブレを減らすために、シャッター設定の使用中は、カメラを三脚または安定した場所に固定して、ぶれたり揺れたりしないようにします。

露出値の補正 (EV値)

露出値の補正は写真とビデオの明るさに影響します。この設定を調整することで、コントラストの強い照明状況下での撮影時に画像品質が改善されます。

設定可能な範囲は-2.0～+2.0です。初期設定は-0.5です。

EV値画面の右側のオプションをスクロールして、それぞれの設定のライブプレビューを確認してから、必要なオプションをタップします。値が高いほど、画像が明るくなります。

*注意：*ビデオの場合、この設定はシャッターが「自動」に設定されている場合にのみ利用できます。

また、映像内の特定の領域に基づいて露出を調整することもできます。詳細については、「*露出コントロール (62ページ)*」をご参照ください。

GOPROテク：EV値は、設定済みのISO範囲内で明るさを調整します。低光量下で明るさがISO設定に達している場合は、EV値の値を上げても効果はありません。映像をより明るくするにはISO値を上げます。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを使用すると、ビデオや写真の色温度を調整し、寒色または暖色の照明条件に合わせて最適化できます。オプションをスクロールしてそれぞれの設定のライブプレビューを確認してから、必要なオプションをタップします。

この設定のオプションは、自動 (初期設定)、2300K、2800K、3200K、4000K、4500K、5000K、5500K、6000K、6500K、ネイティブです。値を小さくすると、暖色が強くなります。

また、「自動」を選択してホワイトバランスをGoProに設定させるか、「ネイティブ」設定を選択して最小限に色補正したファイルを作成し、ポストプロダクション時により正確な調整を行うこともできます。

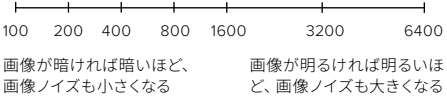
仕様：Protune

ISO最小 / 最大

ISO最小とISO最大によって、カメラの光とイメージノイズに対する感度の範囲を設定できます。画像ノイズとは、ショットの粒度を意味します。

低光量時は、ISO値が高いほどより明るい映像を得られますが、画像ノイズが高くなります。値が低いほど、画像が暗くなり、イメージノイズが低くなります。オプションをスクロールしてそれぞれの設定のライブプレビューを確認してから、必要なオプションをタップします。

「ISO最大」と「ISO最小」は、録画時に「自動」に設定することもできます。これは特に、光の強度が変動する環境での撮影で役立ちます。



*注意：*ビデオおよび写真モードでは、ISOの動作はProtuneのシャッター設定に応じて異なります。選択した「ISO最大」は、ISOの最大値として使用されます。適用されるISO値は、照明条件に応じて、より低くなることがあります。

GOPROテク：特定の値にISOをロックするには、「ISO最小」と「ISO最大」を同じ値に設定します。

仕様：Protune

シャープネス

シャープネスは、ビデオ映像や写真に取り込まれたディテールの質をコントロールします。この設定のオプションは、高、中 (初期設定)、および低です。

オプションをスクロールしてそれぞれの設定のライブプレビューを確認してから、必要なオプションをタップします。

GOPROテク：編集でシャープネスを上げることを想定している場合は、この設定で「低」を選択してください。

ノイズ除去

ノイズ除去とは、コンテンツのビデオノイズを低減するプロセスです。デジタルノイズは、シーンの照明条件などの要因によって発生する可能性があり、歪みや変色として現れます。GoProのノイズ除去レベルは、「低」、「中」、「高」のいずれかに設定できます。

仕様：Protune

カラー
カラー設定では、ビデオや写真のカラープロファイルを調整できます。オプションをスクロールしてそれぞれの設定のライブプレビューを確認してから、必要なオプションをタップします。

カラー設定	説明
ナチュラル (初期設定)	実際の色に忠実なカラープロファイルで写真やビデオを撮影します。
ビビッド	色彩豊かなカラープロファイルで写真やビデオを撮影します。
フラット	ニュートラルなカラープロファイルで、他の機材で撮影されたコンテンツと統合しやすいように色補正できるので、ポストプロダクションでの処理の幅が広がります。トーンカーブが長いため、「フラット」では影とハイライトのディテールがより捉えられます。

仕様：オーディオ

RAWオーディオ
この設定では、標準の.mp4オーディオトラックに加え、ビデオの.wavファイルが別途作成されます。RAWのオーディオトラックに適用する処理のレベルは次の中から選べます。

RAW設定	説明
オフ (初期設定)	個別の.wavファイルは作成されません。
低	最小限の処理を適用します。ポストプロダクションでオーディオも編集する場合に最適です。
中	ウィンドノイズ低減の設定に基づいて中程度の処理を適用します。ゲインを独自に調整する場合に最適です。
高	フルオーディオ処理 (自動ゲインおよびウィンドノイズ低減) を適用します。AACエンコードなしでオーディオを処理する場合に適しています。

.wavファイルにアクセスするには、コンピューターのカードリーダーにSDカードを挿入します。.mp4ファイルと同じ名前で、同じ場所に保存されています。

仕様：オーディオ

オーディオ調整機能

オーディオ調整機能により、賑やかな市場の喧騒、自然の音、友人とのおしゃべりなど、撮影シーンに合わせて録音を調整できます。

設定	説明
標準 (初期設定)	バランスの取れたリアルなサウンドを録音するよう、オーディオ録音を調整します。ほとんどのショットに適しています。
音声	周囲の背景音を維持しながら、クリアな音声になるよう、オーディオ録音を調整します。

ウィンドノイズ低減

HERO13 Blackでは、ビデオの録画中に3つのマイクを使って音声を録音します。撮影時の条件や、完成したビデオに使いたいサウンドの種類に基づいて、使用方法をカスタマイズすることができます。

設定	説明
自動 (初期設定)	風や水による過度なノイズを自動的に除去します。
オン	ウィンドノイズが大きい場合や、移動中の乗り物にマウントしている場合に使用します。
オフ	ウィンドノイズが入らない環境で、ステレオ録音したい場合に使用します。

仕様：オーディオ

メディアモッド

メディアモッド (別売) の内蔵指向性マイクで使用するオーディオ設定を選択します。

*注意：*GoProでメディアモッドを使用すると、画面にオーディオメーターが表示されます。

設定	説明
前面 (初期設定)	メディアモッドの指向性マイクを使用して、カメラの前面からの音声を優先します。
戻る	メディアモッドの指向性マイクを使用して、カメラの背面からの音声を優先します。
カメラマイク	カメラの内蔵マイクを利用します。風がノイズの要因とならない場合に、GoProでステレオ録音を行うために使用します。
フロント およびリアマイク	カメラの前面と背面からの音をモノラルオーディオで録音します。

カスタマーサポート

GoProはベストサービスに万全を期しております。GoProカスタマーサポートへのお問い合わせについては、**gopro.com/help**をご参照ください。

登録商標

GoPro、HEROおよびそれぞれのロゴは、米国およびその他諸国におけるGoPro, Inc.の商標または登録商標です。Bluetoothの文字商標およびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、これらの商標を使用する際は、許可を得て使用しています。その他すべての商標は各所有者に帰属します。© 2024 GoPro, Inc. All rights reserved.特許に関する情報については、**gopro.com/patents**をご参照ください。GoPro, Inc., 3025 Clearview Way, San Mateo CA 94402 | GoPro GmbH, Baierbrunner Str.15 Bldg. D, 81379 Munich, Germany

規制情報

国別の認定書の詳細なリストをご覧になるには、カメラに同梱されている「Important Product + Safety Instructions (重要な製品および安全情報)」を参照するか、**gopro.com/help**をご利用ください。

HEVC Advance™
Covered by patents at patentlist.accessadvance.com

CE UKCA